

ASEAN・インド月報

(2011年8月)

【目次】

■インドネシア

1. マクロ経済動向……………1
2. 政治・経済・産業トピック……………2
3. 市場動向（為替・金利）……………3

■マレーシア

1. マクロ経済動向……………4
2. 政治・経済・産業トピック……………5
3. 市場動向（為替・金利）……………6

■フィリピン

1. マクロ経済動向……………7
2. 政治・経済・産業トピック……………8
3. 市場動向（為替・金利）……………9

■シンガポール

1. マクロ経済動向……………10
2. 政治・経済・産業トピック……………11
3. 市場動向（為替・金利）……………12

■タイ

1. マクロ経済動向……………13
2. 政治・経済・産業トピック……………14
3. 市場動向（為替・金利）……………15

■ベトナム

1. マクロ経済動向……………16
2. 政治・経済・産業トピック……………17
3. 市場動向（為替・金利）……………18

■インド

1. マクロ経済動向……………19
2. 政治・経済・産業トピック……………20
3. 市場動向（為替・金利）……………21

■アジア各国の主要経済指標……………22

ジャカルタ支店、マレーシア三菱東京UFJ銀行、マニラ支店、バンコック支店
ハノイ支店、ホーチミン支店、ニューデリー支店
アセアン金融市場部、経済調査室

1. マクロ経済動向

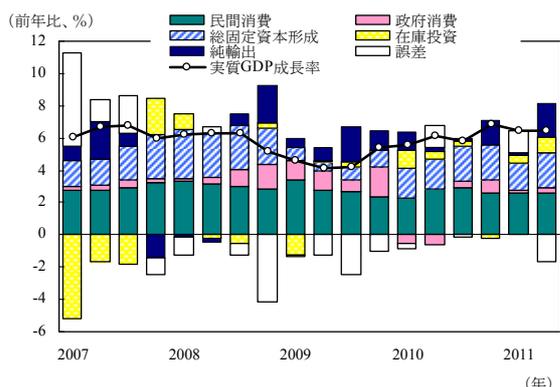
➤ **第2四半期の実質 GDP 成長率は前年比 6.5%**

第2四半期の実質GDP成長率は、前年比6.5%と前期（同6.5%）と同水準を維持した。前期比ベースでは2.9%と前期の同1.5%から加速した。インフレ圧力の緩和などに伴う民間消費（同+4.6%）の堅調に加え、内外企業の設備投資活発化を背景に、総固定資本形成（同+9.2%）が拡大した。また、資源関連を中心とした輸出（同+17.4%）の好調を背景に外需のプラス寄与度が拡大した。

➤ **7月の消費者物価上昇率は前年比 4.6%**

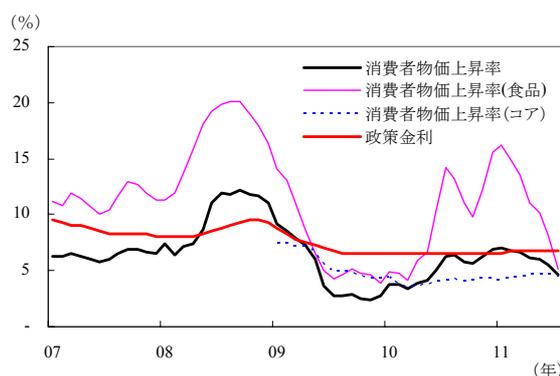
7月の消費者物価上昇率は前年比4.6%と1年2カ月ぶりに4%台へ低下、コアインフレ率も同4.6%（前月：同4.6%）と安定を維持した。新学期シーズンに伴い「衣料」、「教育・娯楽・スポーツ」などが上昇したものの、食品価格の上昇ペースが鈍化した。食品価格については、コメ、肉類などが上昇する一方、砂糖、トウガラシなどは下落した。

第1図：実質 GDP 成長率



(資料) CEICより三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

第2図：物価・政策金利



(資料)CEICより三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

インドネシアの主要経済指標

| | 2008 | 2009 | 2010 | 10/7-9 | 10-12 | 11/1-3 | 4-6 | 11/4 | 11/5 | 11/6 | 11/7 |
|---------------------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|--------|
| 名目GDP (10億ドル) | 510.5 | 540.3 | 707.1 | | | | | | | | |
| 人口 (100万人) (2010年はIMF予測値) | 228.5 | 231.4 | 234.6 | | | | | | | | |
| 1人あたりGDP (ドル) | 2,234 | 2,333 | 3,005 | | | | | | | | |
| 実質GDP成長率 (前年比、%) | (6.0) | (4.6) | (6.1) | (5.8) | (6.9) | (6.5) | (6.5) | | | | |
| 国内自動車販売 (台) | 607,805 | 486,061 | 764,635 | 185,988 | 208,439 | 225,413 | 191,914 | 60,702 | 61,055 | 70,157 | |
| (前年比、%) | (39.9) | (▲20.0) | (57.3) | (46.2) | (40.3) | (29.5) | (▲2.2) | (▲6.9) | (0.9) | (▲0.3) | |
| 消費者物価指数* (前年比、%) | (10.3) | (4.8) | (5.1) | (6.2) | (6.4) | (6.8) | (5.9) | (6.2) | (5.9) | (5.5) | (4.6) |
| 輸出 (FOB) (100万ドル) | 137,020 | 116,510 | 157,733 | 38,395 | 46,863 | 45,388 | 53,257 | 16,554 | 18,287 | 18,415 | |
| (前年比、%) | (20.1) | (▲15.0) | (35.4) | (27.7) | (28.9) | (27.7) | (44.0) | (37.5) | (44.9) | (49.3) | |
| 輸入 (CIF) ** (100万ドル) | 129,151 | 96,829 | 135,663 | 34,452 | 38,274 | 38,795 | 44,797 | 14,888 | 14,826 | 15,083 | |
| (前年比、%) | (73.4) | (▲25.0) | (40.1) | (28.0) | (34.1) | (29.5) | (35.8) | (32.5) | (48.6) | (28.3) | |
| 貿易収支 (100万ドル) | 7,870 | 19,681 | 22,116 | 3,961 | 8,589 | 6,593 | 8,460 | 1,666 | 3,462 | 3,332 | |
| 経常収支 (100万ドル) | 125 | 10,629 | 5,654 | 1,208 | 1,096 | 1,926 | | | | | |
| 外貨準備高 (除く金) (100万ドル) | 49,598 | 63,552 | 92,908 | 83,482 | 92,908 | 102,363 | 116,124 | 110,210 | 114,511 | 116,124 | |
| BI (政策) 金利 ◎ | 9.25 | 6.50 | 6.50 | 6.50 | 6.50 | 6.75 | 6.75 | 6.75 | 6.75 | 6.75 | 6.75 |
| 為替 (ルピア/ドル) *** | 9,699 | 10,390 | 9,084 | 8,995 | 8,959 | 8,904 | 8,589 | 8,651 | 8,554 | 8,561 | 8,531 |
| 株価指数 ◎ | 1355.4 | 2534.4 | 3703.5 | 3501.3 | 3703.5 | 3678.7 | 3888.6 | 3819.6 | 3837.0 | 3888.6 | 4130.8 |

(注) * : 2008年6月より2007年基準へ変更 ** : 2008年1月以降、保税区分を追加。

*** : 期中平均 (四半期、月次はBloomberg、暦年はIMFを参照)、◎ : 期末値

(資料) インドネシア中央銀行、CEIC、IMFなどより三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

(経済調査室 シンガポール駐在)

2. 政治・経済・産業トピックス

| 日付 | トピックス |
|-------|---|
| 7月 1日 | 6月消費者物価統計発表。消費者物価上昇率は前月比0.55%、前年比5.54%。コア上昇率は前年比4.63%。 |
| 1日 | 5月貿易統計発表（速報値）。輸出高は前月比+10.75%の183.3億ドル、輸入高は同▲0.42%の148.3億ドルで、貿易収支は35.1億ドルの黒字。 |
| 1日 | 2011年3月時点の貧困率は12.49%へ低下（下記①）。 |
| 8日 | ジャカルタ総合株式指数が史上初となる4,000ポイント超えを示現。 |
| 8日 | 2011年度補正予算マクロ指標について政府・国会が合意（下記②） |
| 12日 | 中銀総裁会合開催。中銀（BI）レートは6.75%で据え置き。 |
| 15日 | 5月の銀行不良債権残高は前月から2兆7,480億ルピア拡大（下記③）。 |
| 18日 | 6月国内自動車販売台数発表。前月比+14.91%となる7万157台、前年比▲0.32%。上半期（1-6月期）の販売実績は43万7,687台で、前年比+12.8%。 |
| 18日 | 6月国内二輪販売台数発表。前月比▲6.72%となる65万8,817台で、前年比+0.83%。上半期（1-6月）の販売実績は405万5,605台で、前年比+12.7%。 |
| 21日 | 松本外相がバリで開催されるASEAN関連外相会議に出席の為、インドネシア訪問。マルティ外相との間で第2回 日本-インドネシア閣僚級戦略対話を実施。 |
| 22日 | ジャカルタにて29回目となる「インドネシア国際モーターショー（IIMS）」を7月31日まで開催。 |
| 8月 1日 | 7月消費者物価統計発表。消費者物価上昇率は前月比+0.67%、前年比+4.61%。コア指数は前年比+4.55%。 |
| 1日 | 6月貿易統計発表。輸出高は前月比+0.49%の184.2億ドル、輸入高は同+1.69%の150.8億ドルで、貿易収支は33.3億ドルの黒字。 |
| 5日 | 第1四半期実質GDP発表。実質GDP成長率は前期比+2.87%、前年比+6.49%。 |

① 2011年3月時点の貧困率は12.49%へ低下

7月1日、中央統計局によると、2011年3月時点の貧困率（全人口に占める貧困者の比率）は12.49%と、前年から0.84%ポイント低下した。エリア別には都市部の貧困率は9.23%で前年比0.64%ポイント低下、農村部の同率は15.72%で同0.84%ポイント低下した。また、貧困人口は前年比▲3.3%の3,002万人となった。

② 2011年度補正予算マクロ指標について政府・国会が合意

7月8日、政府と国会は今年度の補正予算審議に盛り込むマクロ経済指標の修正について合意した。経済成長率は従来の6.4%から政府案の6.5%へ、インフレ率は従来の5.30%から5.65%へ（政府案は6.00%）、為替レートは現行の1ドル=9,250ルピアよりルピア高の1ドル=8,700ルピア（政府案は8,800）へそれぞれ修正された。また、SBI（中銀短期証券）3カ月物金利は現行の6.5%から5.6%に引下げることで合意した。

③ 5月の不良債権残高は前月から2兆7,480億ルピア拡大

7月15日、中央銀行は5月末時点の国内商業銀行の不良債権残高は前月から2兆7,480億ルピア増加したと発表した。残高は前月から0.07%ポイント上昇、前年比では▲0.29%ポイントと減少した。不良債権比率は2.92%。その他の主要指標は、自己資本比率（CAR）が17.41%、預貸比率（LDR）が78.45%、預貸利鞘（NIM）が5.76%だった。

（ジャカルタ支店）

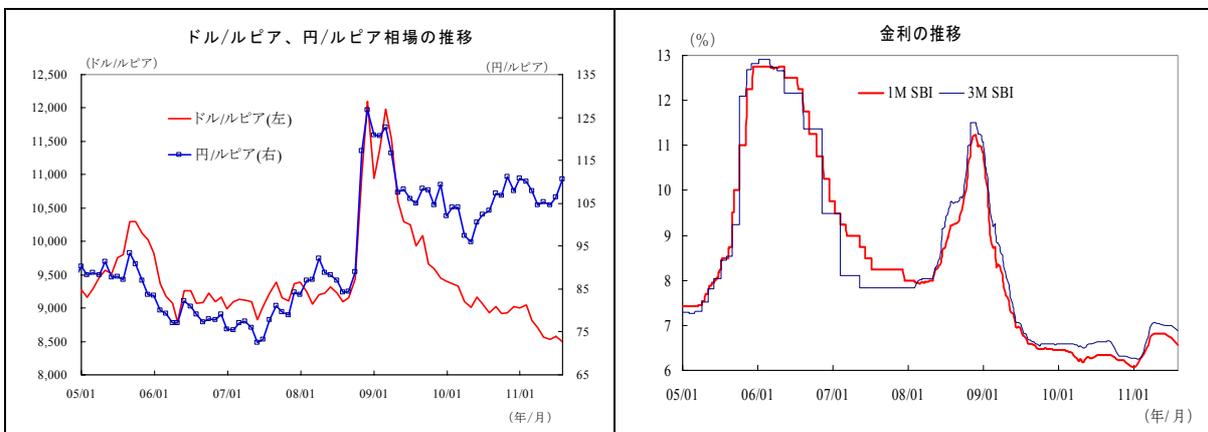
3. 市場動向

(1) 為替

| |
|---|
| 7月の動向 |
| 7月のドル/ルピア相場は8575でオープン。ギリシャ議会が緊縮財政案や関連法案を可決したことで、月初から市場のリスク選好が回復する中、好調な経済指標を受けた米景気減速懸念の後退なども手伝い、当地国内市場には海外勢を中心に投資資金が流入、ルピアも強含みに推移した。しかし、その後は予想を下回った米6月雇用統計など米経済指標は軒並み冴えない数字が並び始め、市場では再び米景気減速懸念が台頭。中国でも当局による利上げを受けた景気鈍化懸念が再浮上、欧州では債務問題の波及懸念などが再び意識される中、市場のリスク選好度は次第に後退した。しかし、アジアの主要市場が軒並み軟調な推移となる中、当地ではジャカルタ総合株式指数が4,000を超えて史上最高値を更新、債券市場でも全タームで価格が上昇(利回りは下落)するなど、海外投資家からの資金流入は継続した。その後も月央から月後半にかけて米債務上限問題で与野党協議が膠着する中において、当地では海外投資家勢によるリスク資産手仕舞いに伴うルピア売り、新規流入に伴うルピア買いが拮抗、ドル/ルピアは8500台での揉み合いを続けた。月末にかけて株式市場が史上最高値を更に更新するなど一段高となると、ドル/ルピアは一時8485までルピア高が進み、結局8501でクローズした。 |
| 8月の展望 |
| 8月1日に発表された7月消費者物価上昇率は前年比4.61%と、前月(同5.54%)から更に減速した。コア上昇率も同4.55%と前月(同4.63%)から小幅減速、これを受けて主に債券市場で買い安心感が醸成されている。一方、米債務上限問題は期限直前で合意に至り、最悪の事態は回避されたものの、直後から市場のテーマは米欧の景気減速懸念へとシフトしており、市場では積極的にリスク資産を手掛けづらい状況となっている。中国経済の鈍化懸念や、通貨高に苦むスイス・日本による通貨高抑制の動きなどが注目される中、広範囲にわたってリスク資産手仕舞い、ドル買戻しの流れが起きているが、これはごく短期的なポジション調整に止まろう。米景気回復見通しが立たない現状においては、低金利・超金融緩和状態にあるドルからの資金流出の構図は避けられず、その資金の行き先として当地株式・債券市場が比較的高い優先順位を得ていることは、前月のリスク回避局面での底堅さからも確認されている。ドル/ルピアは短期的なポジション調整で上下動することはあっても、基本的な路線として8400を目指すルピア高傾向を継続しよう。 |

(2) 金利

| |
|--|
| 7月の動向 |
| 12日の中銀総裁会合では、中銀は予想通りに政策金利の据置きを決定した。短期金利市場では足許のインフレ率の落ち着きを背景に、中銀が市場からの資金吸収オペを緩和させたことから、オーバーナイト金利は5.80-6.20%レンジでの低め推移となった。一方、債券市場では米・中景気減速懸念や米債務上限問題を背景に市場のリスク選好度が後退する局面でも底堅く推移、月を通じてじり高(利回りはじり安)に推移した。結局、2年債利回りは前月末比0.77%ポイント下落の5.43%、5年債は同0.39%ポイント下落の6.49%、10年債は同0.51%ポイント下落の7.04%、15年債は同0.38%ポイント下落の7.82%での越月となった。 |
| 8月の展望 |
| 7月消費者物価指数が低下したことで、中銀による金利低め誘導を見る向きから、長短にかけて金利低下圧力が掛かりつつある。FTK(短期中銀定期)は国内銀行からの旺盛な需要を受けて徐々に利回りが低下傾向にある一方、債券市場でも海外投資家を中心に買い安心感が出ており、イールドカーブは全体に低下しつつフラットニング化する、ブルフラットニングの状態へと向かいつつある。このまま国内インフレが低位安定する流れとなるようなら、中銀の次の一手は利下げとなる可能性も出て来ており、その場合は長短にかけてイールドカーブは更に押し下げられよう。 |



| | | 08/12 | 09/12 | 10/12 | 11/4 | 11/5 | 11/6 | 11/7 | |
|-------------|------------------------------|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 為替 | インドネシア中銀 (BI Reference Rate) | 10,895 | 9,400 | 8,991 | 8,574 | 8,537 | 8,597 | 8,508 | |
| | 弊行カウンターレート (USD/IDR) | TTM | 10,900 | 9,450 | 9,000 | 8,570 | 8,555 | 8,620 | 8,510 |
| | | Buying | 10,500 | 9,150 | 8,700 | 8,270 | 8,255 | 8,320 | 8,210 |
| | | Selling | 11,300 | 9,750 | 9,300 | 8,870 | 8,855 | 8,920 | 8,810 |
| | | Average TTM | 11,218 | 9,430 | 9,011 | 8,637 | 8,545 | 8,547 | 8,522 |
| | 弊行カウンターレート (JPY/IDR) | TTM | 120.84 | 102.43 | 110.70 | 105.15 | 106.01 | 106.95 | 109.38 |
| | | Buying | 115.13 | 98.07 | 105.71 | 100.24 | 101.04 | 101.96 | 104.19 |
| | | Selling | 126.63 | 106.79 | 115.82 | 110.19 | 111.10 | 112.06 | 114.71 |
| Average TTM | | 123.04 | 105.36 | 108.23 | 103.71 | 105.37 | 106.28 | 107.34 | |
| 金利 | インドネシア中銀 | | | | | | | | |
| | 1M SBI | 10.83 | 6.46 | 6.06 | 6.81 | 6.82 | 6.73 | 6.58 | |
| | IDR 5Y | 11.80 | 8.80 | 6.86 | 6.94 | 6.88 | 6.88 | 6.49 | |
| | IDR 10Y | 11.90 | 10.05 | 7.90 | 7.68 | 7.39 | 7.55 | 7.04 | |

(ジャカルタ支店)

1. マクロ経済動向

▶ **6月の自動車販売台数は前年比▲22.6%**

6月の自動車販売台数は4万1,790台（前年比▲22.6%）と二桁の落ち込みを記録した。東日本大震災に伴う納車の遅れに加え、「改正割賦販売法」施行に伴う販売手続きの煩雑化などが下押し要因となった。

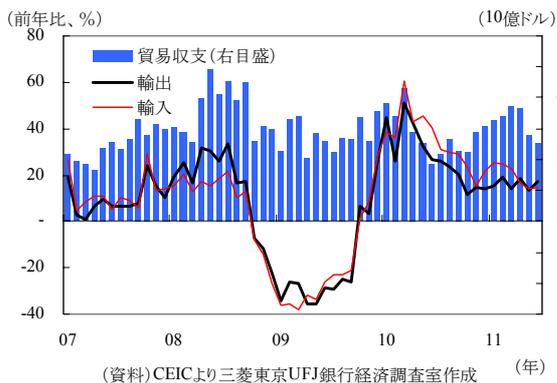
▶ **6月の輸出は前年比+16.9%**

6月の輸出（ドルベース）は、電子・電機が伸び悩むなか、パーム油、原油・石油精製品、天然ガスなどの一次産品が牽引し、189億ドル（前年比+16.9%）と堅調を維持した。国別では、米国向けが減少した一方、ASEANや中国などアジア域内向けが好調に推移した。他方輸入は、資本財を中心に164億ドル（同+14.5%）へ拡大、貿易黒字は25億ドルと前月（28億ドル）から小幅縮小した。

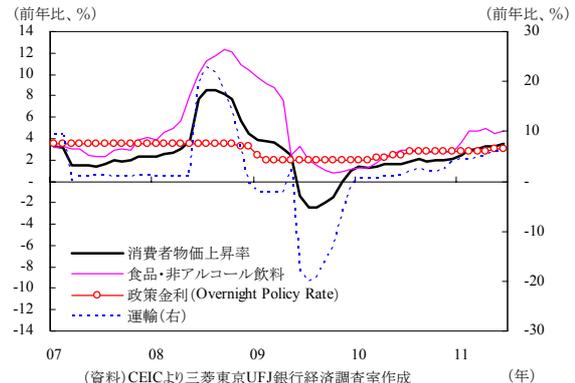
▶ **6月の消費者物価上昇率は前年比3.5%**

6月の消費者物価上昇率は、前年比3.5%と2年3カ月ぶりの水準まで上昇した。補助金削減に伴う食品や燃料価格の上昇に加え、電気料金値上げなどが影響した。

第1図：貿易動向



第2図：消費者物価上昇率



マレーシアの主要経済指標

| | 2008 | 2009 | 2010 | 10/7-9 | 10-12 | 11/1-3 | 4-6 | 11/4 | 11/5 | 11/6 | 11/7 |
|----------------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 名目GDP (10億ドル) | 222 | 193 | 238 | | | | | | | | |
| 人口 (100万人) | 27.5 | 27.9 | 28.3 | | | | | | | | |
| 1人あたりGDP (ドル) | 8,072 | 6,912 | 8,422 | | | | | | | | |
| 実質GDP成長率 (前年比、%) | (4.8) | (▲1.6) | (7.2) | (5.3) | (4.8) | (4.6) | | | | | |
| 鉱工業生産指数 (前年比、%) | (0.7) | (▲7.8) | (7.6) | (4.3) | (4.1) | (2.6) | | (▲1.7) | (▲5.1) | | |
| 自動車販売台数 (台) | 548,115 | 536,905 | 605,156 | 152,134 | 151,907 | 158,621 | 138,771 | 50,936 | 46,045 | 41,790 | |
| (前年比、%) | (12.5) | (▲2.1) | (12.7) | (3.7) | (9.3) | (7.6) | (▲9.7) | (4.4) | (▲9.5) | (▲22.6) | |
| 消費者物価指数 (前年比、%) | (5.4) | (0.6) | (1.7) | (1.9) | (2.0) | (2.8) | (3.3) | (3.2) | (3.3) | (3.5) | |
| 輸出 (FOB) (100万ドル) | 199,535 | 157,428 | 198,937 | 50,337 | 52,942 | 54,619 | 56,415 | 19,201 | 18,284 | 18,930 | |
| (前年比、%) | (13.4) | (▲21.1) | (26.4) | (23.2) | (13.3) | (15.8) | (16.3) | (18.3) | (13.7) | (16.9) | |
| 輸入 (CIF) (100万ドル) | 156,443 | 123,828 | 164,847 | 43,250 | 44,744 | 44,190 | 47,434 | 15,544 | 15,468 | 16,422 | |
| (前年比、%) | (7.0) | (▲20.8) | (33.1) | (30.0) | (20.3) | (24.2) | (15.0) | (16.5) | (13.9) | (14.5) | |
| 貿易収支 (100万ドル) | 43,092 | 33,600 | 34,090 | 7,087 | 8,198 | 10,430 | 8,981 | 3,657 | 2,816 | 2,508 | |
| 経常収支 (100万ドル) | 39,555 | 31,799 | 27,283 | 6,409 | 7,631 | 9,911 | | | | | |
| 外貨準備高 (除く金) (100万ドル) | 91,157 | 95,397 | 104,857 | 99,206 | 104,857 | 112,161 | 132,563 | 128,310 | 131,073 | 132,563 | |
| 銀行間3カ月金利 (%) ◎ | 3.37 | 2.17 | 2.98 | 2.93 | 2.98 | 3.04 | 3.29 | 3.10 | 3.23 | 3.29 | 3.29 |
| 為替 (リンギ/ドル) * | 3.333 | 3.525 | 3.219 | 3.153 | 3.115 | 3.047 | 3.019 | 3.013 | 3.013 | 3.030 | 2.995 |
| 株価指数◎ | 876.8 | 1,272.8 | 1,518.9 | 1,463.5 | 1,518.9 | 1,545.1 | 1,579.1 | 1,535.0 | 1,558.3 | 1,579.1 | 1,548.8 |

(注) *印：期中平均値、◎印：期末値。
(資料) マレーシア中銀、CEICなどより三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

(経済調査室シンガポール駐在)

2. 政治・経済・企業トピックス

| 日付 | トピックス |
|-------|---|
| 7月4日 | マレーシア農林水産省、東京電力福島第1原発事故に伴う食品の輸入規制の緩和を発表。東北や関東の11都県産の食品に求められていた放射性物質の検査証明書が1日から不要となり、産地証明だけで済むようになった。福島など8県産の食品については、マレーシア側で検査を受けることになる。 |
| 7月5日 | マレーシア政府、経済変革プログラムで6つの戦略改革イニシアチブを発表(下記①)。 |
| 7月7日 | マレーシア中央銀行、翌日物基準政策金利(OPR)を3.00%で据置き(下記②)。 |
| 7月7日 | マレーシア中央銀行、6月末時点の外貨準備高、同月15日時点から11億ドル増加の1,343億ドル。 |
| 7月11日 | 1-5月期のオートバイの累計販売台数は前年比+9.7%の20万6,715台、累計生産台数は同+12.1%の21万114台。 |
| 7月11日 | マレーシア統計局、5月の鉱工業生産指数(IPI、2005年=100)は前年比▲5.1%の104.4ポイント。 |
| 7月11日 | マレーシア統計局、5月の製造業売上高、前年比+8.0%の478億リンギ(約1兆2,840億円)。 |
| 7月12日 | マレーシア統計局、ゴム統計(速報値)、2011年5月の天然ゴム生産量は前年比+11.0%の7万1,626トン。輸出は同+26.4%の8万1,168トン、国内消費は同▲19.6%の3万2,659トン。 |
| 7月20日 | マレーシア統計局、6月の消費者物価上昇率は前年比3.5%。5月(同3.3%)から小幅加速。 |
| 7月21日 | マレーシア統計局、国内主要5港の2011年4月のコンテナ取扱量、前年比+10.7%。 |
| 7月21日 | マレーシア統計局、5月の景気動向指数、一致指数(CI、2005年=100)は前月比▲0.4%の113.3ポイント。 |
| 7月22日 | マレーシア統計局、2011年5月の失業率は前月と変わらず3.0%。前年比では0.3%ポイント低下。5月の労働人口は前月比▲1.7%、前年比+8.0%の1,250万人。 |
| 7月22日 | マレーシア中央銀行、7月15日時点の外貨準備高1,345億6,830万米ドル(約10兆5,600億円)。6月30日時点の1,343億2,600万米ドルから微増。 |
| 7月28日 | 通産省、圧延コイルのセーフガードに関する調査結果を延期(下記③)。 |
| 7月29日 | マレーシア中央銀行、6月の月次報告にてM3は、同月末時点で前年比+12.4%。 |

① 政府、経済変革プログラムで6つの戦略改革イニシアチブを発表

7月5日、マレーシア政府は、国際競争力を強化するための6つの戦略改革イニシアチブ(SRI)を発表した。6つのSRIは、①国家財政、②ビジネスにおける政府の役割、③人的資源開発、④公共サービスの提供、⑤国際標準と自由化、⑥格差の縮小。このうち①と②については、ナジブ首相自身が担当する。今後、政府系企業の売却、最低賃金の導入、物品サービス税(GST)の導入、ヘルスケア、教育、ビジネス・サービス(プロフェッショナル・サービス)の規制緩和などを行う予定。

② 中銀、政策金利を3%で据え置き

7月7日、中銀は金融政策委員会で翌日物基準政策金利(OPR)を3.00%で据え置くことを決定した。国内はインフレ懸念が高まっているが、外的要因による経済成長の下振れリスクが増していると判断した。一方、7月16日付で銀行システムの法定預金準備率(SRR)を3.00%から4.00%へ引き上げた。金融の不均衡と過剰な流動性を管理するのが狙い。引き上げにあたり、中銀はSRRの引き上げは金融政策のあり方を示すものではなく、OPRが金融政策の唯一の指標であることを改めて示した。

③ 人的資源省、最低賃金制度導入に向けた法案を下院へ提出

7月28日、マレーシア通産省は、熱間圧延コイル(HRC)のセーフガードに関する調査結果の期限を30日から8月28日に延長すると発表した。

(マレーシア三菱東京UFJ銀行)

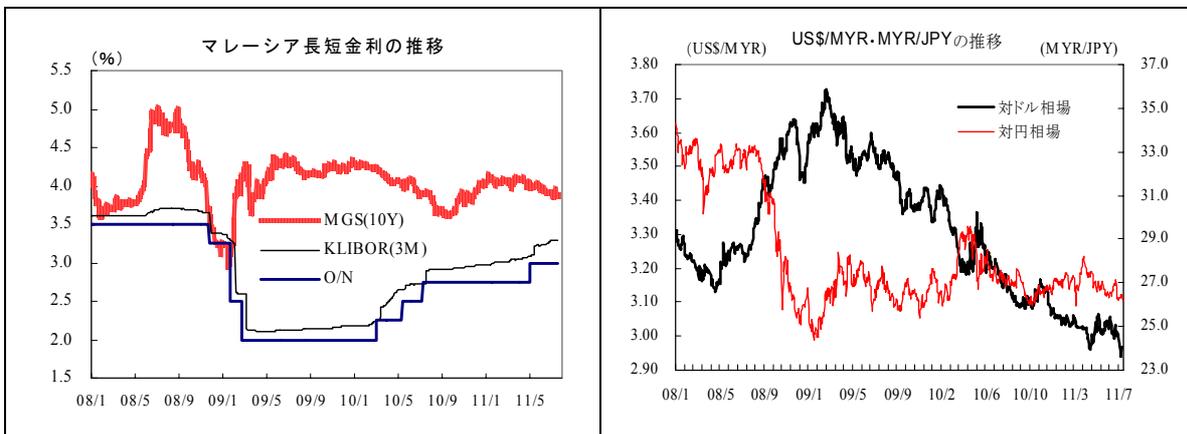
3. 市場動向

(1) 為替

| |
|---|
| <p>7月の動向</p> <p>3.01台でスタートした前月のリングgit相場は、米経済指標が良好だったことから米株・アジア株が堅調推移となり、リングgitは上昇し3.00を一旦割り込んだ。しかし、欧州ソブリン問題がイタリアやスペインに拡大する懸念が出てきたことでリスク回避の動きが強まり、アジア株とアジア通貨が下落、リングgitも3.06台後半まで押し戻された。その後バーナンキ議長が追加金融緩和の可能性に言及したことから全般的なドル売りが強まり、リングgitは反騰し再び3.00台を割り込んだ。更に、米連邦債務上限引き上げ協議が難航したことから米ドル安アジア通貨高が進行、リングgitは続伸し2.9340を付けアジア通貨危機以降の高値を更新した後、2.97近くまで戻して前月の取引を終えた。前月発表されたマレーシアの経済指標は、5月の鉱工業生産指数が前年比▲5.1%と前月の▲1.7%（改定値）からマイナス幅が拡大。6月の消費者物価上昇率が前年比3.5%と5月（同3.3%）の伸びを上回った。</p> |
| <p>8月の展望（予想レンジ：2.9500～3.0500）</p> <p>今月のリングgit相場は上昇が一段と予想。米連邦政府債務上限引き上げ法案が議会で可決されたことで、ひとまずデフォルトが回避され、ドル急落の懸念は後退した。しかし、米国では不況的な経済指標が続いており、米景気先行き不安と債務懸念からくる米国価格下げが重石となり、ドルの上値は重かる。欧州債務問題もギリシャから欧州諸国に伝播する動きを見せており、リスク回避の動きがアジア株・通貨安につながり易いことから、引き続き注意が必要である。リングgitはこれらのような外部要因に左右される展開が続くと予想するが、米デフォルト回避でドル買戻しの動きが本格化する可能性があること、先月につけた2.9340近辺では、根強いリングgit売り・米ドル買いが観測されたことから、ここからのリングgitの上昇余地は限られよう。ここまでの上昇ペースが速かったこともあり、今月リングgitの上昇は一段とだろう。</p> |

(2) 金利

| |
|---|
| <p>7月の動向</p> <p>3.01台でスタートした前月のリングgit相場は、米経済指標が良好だったことから米株・アジア株が堅調推移となり、リングgitは上昇し3.00を一旦割り込んだ。しかし、欧州ソブリン問題がイタリアやスペインに拡大する懸念が出てきたことでリスク回避の動きが強まり、アジア株とアジア通貨が下落、リングgitも3.06台後半まで押し戻された。その後バーナンキ議長が追加金融緩和の可能性に言及したことから全般的なドル売りが強まり、リングgitは反騰し再び3.00台を割り込んだ。更に、米連邦債務上限引き上げ協議が難航したことから米ドル安アジア通貨高が進行、リングgitは続伸し2.9340を付けアジア通貨危機以降の高値を更新した後、2.97近くまで戻して前月の取引を終えた。前月発表されたマレーシアの経済指標は、5月の鉱工業生産指数が前年比▲5.1%と前月の▲1.7%（改定値）からマイナス幅が拡大。6月の消費者物価上昇率が前年比3.5%と5月（同3.3%）の伸びを上回った。</p> |
| <p>8月の展望</p> <p>今月のリングgit相場は上昇が一段と予想。米連邦政府債務上限引き上げ法案が議会で可決されたことで、ひとまずデフォルトが回避され、ドル急落の懸念は後退した。しかし、米国では不況的な経済指標が続いており、米景気先行き不安と債務懸念からくる米国価格下げが重石となり、ドルの上値は重かる。欧州債務問題もギリシャから欧州諸国に伝播する動きを見せており、リスク回避の動きがアジア株・通貨安につながり易いことから、引き続き注意が必要である。リングgitはこれらのような外部要因に左右される展開が続くと予想するが、米デフォルト回避でドル買戻しの動きが本格化する可能性があること、先月につけた2.9340近辺では、根強いリングgit売り・米ドル買いが観測されたことから、ここからのリングgitの上昇余地は限られよう。ここまでの上昇ペースが速かったこともあり、今月リングgitの上昇は一段とだろう。</p> |



| | | 10/7 | 11/3 | 11/5 | 11/6 | 11/7 | 11/8 (予想) |
|----------|---------------|--------|--------|--------|--------|--------|-----------------|
| 為替 (月末値) | USD/MYR | 3.1830 | 3.0255 | 3.0130 | 3.0200 | 2.9670 | 2.9500 ~ 3.0500 |
| | MYR/JPY | 27.13 | 27.38 | 27.08 | 26.63 | 26.15 | 25.70-26.70 |
| 金利 | O/N | 2.75 | 2.75 | 3.00 | 3.00 | 3.00 | 3.25 |
| | KLIBOR(3カ月物) | 2.91 | 3.04 | 3.23 | 3.29 | 3.29 | 3.29-3.39 |
| | 国債 (MGS) 10年物 | 3.87 | 4.10 | 4.02 | 3.93 | 3.86 | 3.70-3.90 |

(マレーシア三菱東京UFJ銀行)

1.マクロ経済動向

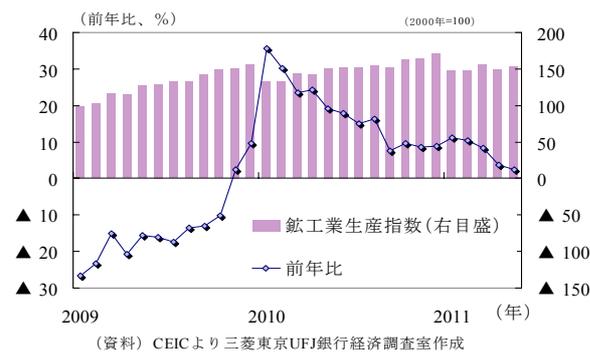
➤ 5月の鉱工業生産は前年比+2.4%へ鈍化

5月の鉱工業生産は前年比+2.4%と、前月（同+3.8%）から一段と伸びが鈍化した。構成品目の内訳をみると、石油製品（同+27.7%）など上昇ペースが加速したのものもあったが、主力の電子機器類（同▲22.3%）や輸送機器類（同▲34.5%）など、多くの品目が減速、あるいは減少した。

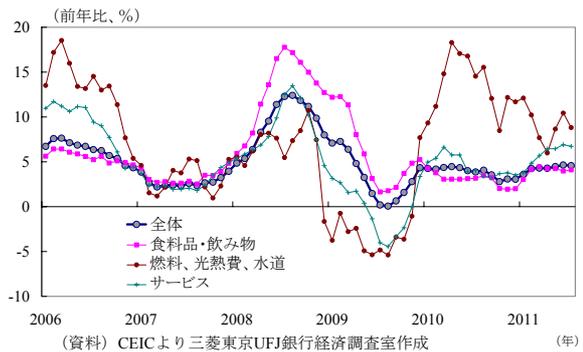
➤ 7月の消費者物価上昇率は前年比4.6%と横ばい

7月の消費者物価上昇率は前年比4.6%と、前月から横ばいで推移した。コア上昇率は同3.7%と、前月（同4.0%）から低下した。食料品価格（同4.1%）は小幅加速したが、エネルギー関連価格（同+8.8%）の伸びが一服したほか、サービス価格（同+6.7%）の伸びが鈍化した。なお、6月から消費者物価指数の基準年が従来の2000年から2006年へ変更されたものも公表されている。新基準での7月の消費者物価上昇率は同5.2%だった。

第1図： 鉱工業生産



第2図： 消費者物価上昇率



フィリピンの主要経済指標

| | 2008 | 2009 | 2010 | 10/7-9 | 10/10-12 | 11/1-3 | 11/4-6 | 11/4 | 11/5 | 11/6 | 11/7 |
|----------------------|---------|---------|---------|--------|----------|---------|---------|---------|---------|---------|--------|
| 名目GDP (10億ドル) | 167 | 161 | 189 | | | | | | | | |
| 人口 (100万人) | 90.5 | 92.2 | 94.0 | | | | | | | | |
| 1人あたりGDP (ドル) | 1,848 | 1,746 | 2,008 | | | | | | | | |
| 実質GDP成長率 (前年比、%) | (3.7) | (1.1) | (7.6) | (7.3) | (6.1) | (4.9) | | | | | |
| 製造業生産指数 (前年比、%) | (4.4) | (▲13.2) | (16.9) | (13.0) | (8.6) | (10.8) | | (3.8) | (2.4) | | |
| 国内自動車販売 (台) | 124,449 | 132,444 | 168,490 | 44,754 | 41,589 | 36,293 | 33,707 | 11,816 | 10,913 | 10,978 | |
| (前年比、%) | (5.6) | (6.4) | (27.2) | (33.7) | (6.5) | (▲6.2) | (▲22.4) | (▲17.1) | (▲22.0) | (▲27.7) | |
| 消費者物価指数 (前年比、%) | (9.3) | (3.2) | (3.8) | (3.8) | (3.0) | (4.1) | (4.5) | (4.3) | (4.5) | (4.6) | (4.6) |
| 輸出 (FOB) (100万ドル) | 49,078 | 38,436 | 51,498 | 14,620 | 13,136 | 12,219 | | 4,302 | 4,108 | | |
| (前年比、%) | (▲2.8) | (▲21.7) | (34.0) | (40.3) | (21.8) | (7.8) | | (19.1) | (▲3.1) | | |
| 輸入 (CIF) (100万ドル) | 56,746 | 43,092 | 54,933 | 13,746 | 14,809 | 15,612 | | 5,497 | 4,888 | | |
| (前年比、%) | (2.2) | (▲24.1) | (27.5) | (21.5) | (29.9) | (22.2) | | (20.3) | (1.6) | | |
| 貿易収支 (100万ドル) | ▲ 7,669 | ▲ 4,656 | ▲ 3,435 | 874 | ▲ 1,674 | ▲ 3,394 | | ▲ 1,195 | ▲ 780 | | |
| 経常収支 (100万ドル) | 3,627 | 9,358 | 8,465 | 3,307 | 2,172 | 933 | | | | | |
| 外貨準備高 (除く金) (100万ドル) | 33,193 | 38,783 | 55,363 | 46,360 | 55,363 | 58,903 | 61,379 | 60,890 | 61,264 | 61,379 | 63,319 |
| TBレート金利 ◎ | 6.1 | 3.9 | 0.8 | 4.0 | 0.8 | 1.1 | 2.9 | 0.7 | 2.3 | 2.9 | 2.3 |
| 為替 (ペソ/ドル) * | 44.32 | 47.68 | 45.09 | 45.22 | 43.62 | 43.79 | 43.24 | 43.17 | 43.14 | 43.41 | 42.75 |
| 株価指数 ◎ | 1872.9 | 3052.7 | 4201.1 | 4100.1 | 4201.1 | 4055.1 | 4291.2 | 4319.5 | 4244.6 | 4291.2 | 4503.6 |

(注) *印：期中平均、◎印：期末値。

(資料) CEIC、IMFなどより三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

(経済調査室)

2. 政治・経済・産業トピックス

| 日付 | トピック |
|------|--|
| 7月5日 | 6月の消費者物価上昇率は前年比4.6%。 |
| 5日 | アキノ大統領、昨年クリスマスに中古で購入した愛車のボルシェを売却。高級車の購入は、最近の大統領支持率低下の要因の一つとされていた。なお売却価格は購入価格と同じ450万ペソとのこと。 |
| 6日 | 世界銀行は6日、今年及び来年のフィリピンの経済成長率予想をそれぞれ、前年比5.0%、同5.4%で据え置くと発表。世銀によると、フィリピンのサービスと農業部門は引き続き堅調と見込まれ、鉱業部門への投資の増加が経済成長を押し上げる可能性があるとのこと。 |
| 7日 | 6月の外貨準備残高は689億96百万ドル、過去最高を更新。これは輸入の10.3カ月分、短期対外債務の5.9倍をカバーする水準。 |
| 11日 | 5月のマネーサプライは前年比+8.0%。前月の同+7.3%から伸びが加速。 |
| 11日 | 5月の商業銀行による貸出残高は前年比+18.8%の伸び率（中銀とのリバースレポを除く）となり、2009年4月以来の高い伸び。中銀とのリバースレポを含むベースでは同+20.6%。 |
| 12日 | 4月のFDI（海外直接投資）は81百万ドルと低迷（下記①）。 |
| 14日 | 6月の外国人証券投資は3億54百万ドルの純流入。1月から累計での純流入額は23億60百万ドルで、前年同期（6億86百万ドル）を大きく上回る水準。 |
| 15日 | 5月のOFW（海外フィリピン人労働者）からの送金額は17億ドル、前年比+6.9%。1月からの累計では前年比+6.2%で、年間の政府見通し（同+7.0%）を小幅下回るペース。 |
| 19日 | 6月の国際収支（BOP）は2億22百万ドルの黒字となり、5月（2億17百万ドルの黒字）から横這い。1月からの累計では約50億ドルの黒字で、前年同期（約32億ドルの黒字）を大幅に上回るペース。 |
| 20日 | 株価指数PSE、初めて4,500台を突破。 |
| 21日 | 中銀の発表によると昨年12月時点での地場銀行の自己資本比率（CAR）は単体ベース（除く子会社）で16.02%、連結ベースで16.97%。9月末時点の16.04%（単体）、16.97%（連結）と殆ど水準変わらず。 |
| 22日 | 商業銀行の5月の不良債権比率（NPL）は2.80%と、前月の2.95%から一段と低下。1998年のアジア通貨危機以来最低の水準。 |
| 25日 | アキノ大統領は昨年6月30日に大統領就任後、2度目となる施政方針（SONA：State of the National Address）演説を行った。大統領はその中で、昨年1年間の汚職対策の成果を強調。また今後も一層、汚職撲滅に注力すると述べた。 |
| 28日 | 中銀金融理事会で政策金利据え置きを決定（下記②）。 |
| 29日 | 有力格付会社であるS&Pはフィリピンのソブリン格付の見通しをStable（安定的）で据え置くと発表。 |

①4月の海外直接投資額は低迷

4月の海外直接投資額は81百万ドルの純流入と、前月（1億67百万ドル）から低迷した。中銀は欧州ソブリン問題など海外経済の不透明感で投資家心理が冷え込んだとの見方を示した。この結果1～4月期の純流入額は5億52百万ドル、前年比▲15%となった。なおUNCTAD（国連貿易開発会議）の報告によると、昨年東南アジアへのFDI流入額は前年比約2倍となったが、フィリピン向けのみ前年割れだった。

②中銀、政策金利据え置きを決定

7月28日、中銀は金融理事会で政策金利の据え置きを決定した。据え置きは2回連続。また前回同様、金融機関の中銀への準備預金率を1%引き上げ、21%とした。準備預金率はリーマンショック後の2008年11月に21%から19%に下げられたが、今回の引き上げで危機対応以前の水準に戻った格好。中銀は声明で、インフレは引き続きコントロールされており、ピークは第4四半期となる見込みとした。また今年度及び来年度のインフレ見通しはそれぞれ4.70%、3.74%（2000年基準）とした。

（マニラ支店）

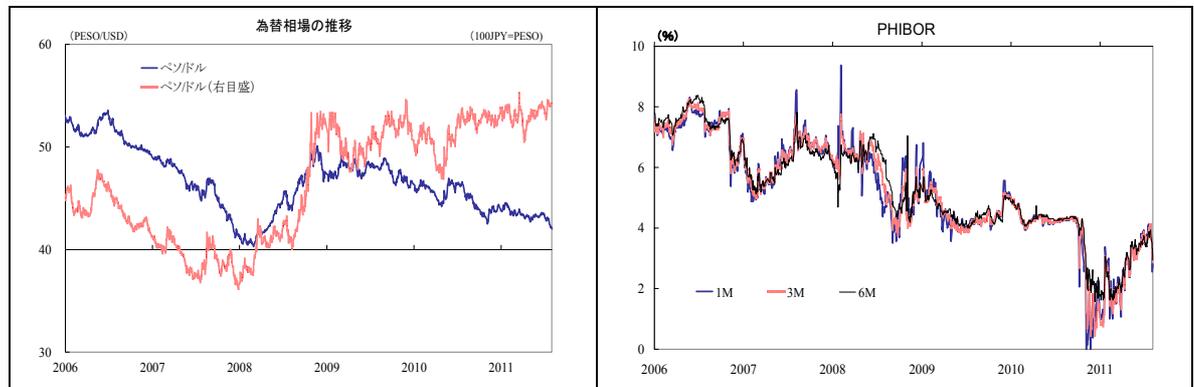
3. 市場動向

(1) 為替

| |
|---|
| <p>7月の動向 (7月のレンジ: 42.080~43.335)</p> <p>7月のペソ相場は急伸し、対ドルで約3年3カ月ぶりの高値を示現した。月初寄り付きは前月末対比0.05ペソ高となる43.280、直後につけた43.335が月間でのペソ最高値となった。前月末にギリシャにおいて財政緊縮法案が可決されたことから同国の債務問題は一旦小康状態となり、リスクテイクの動きが活発化。インフレ抑制のために中銀がある程度のペソ高を容認するのではないかとの見方も相俟ってペソは8日、年初来高値(42.635)に迫る42.730まで上昇した。月中にかけて、欧州債務問題の焦点がイタリアやスペインに飛び火したことによりリスク回避意識が高まり、ペソも一旦43ペソ台前半まで小反落する局面も見られた。しかしながら、海外からの資金流入を背景としてペソの地合いは強く、また米国の格下げ可能性を示唆する報道もあり、直ぐに反発に転じた。月後半にかけてのマーケットの焦点は米国の債務上限引き上げ問題に集まった。8月2日までに米国の債務上限の引き上げが合意されないことと米国のデフォルト可能性が高くなるとの事態にマーケットは動揺し、広範なドル離れの動きが進んだ。こうしたドル離れを背景にペソも対ドルで値を伸ばし、21日にはついに42.635を上抜けた。米国債務上限問題は月末にかけても進展の兆しが見られず、ドル円が76円台まで下落するなどドル安に歯止めがかからない状況下、ペソも連日高値を更新する動きが続き、27日には約3年3カ月ぶりの高値となる42.080を示現した後、42.140での引けとなった。</p> |
| <p>8月の展望 (8月の予想レンジ: 41.600~43.000)</p> <p>8月のペソ相場も7月の堅調さを維持する展開を予想する。米債務上限問題は何とか引き上げの合意に至ったものの、今後の財政の舵取りなど米国の抱える問題は多く、また、ストレステストを概ね無難な結果に終えた欧州も、債務問題の焦点がイタリアやスペインに飛び火して予断を許さない状況にある。こうした状況下、従来であればリスク環境の悪化に伴って売られる局面が多かった新興国通貨であるが、最近では寧ろドル売りの受け皿になっている感もあり、底堅い動きとなっている。ペソに関してはマクロ経済の改善、特に最近の財政状況の大幅な改善は外部からの評価を一層高めるものであり、ペソ買いを引き続きサポートしよう。42ペソ台を割り込む局面では中銀による介入も相応に出ようことから、42ペソ台前半が中心レンジとなる底堅い展開となろう。</p> |

(2) 金利

| |
|---|
| <p>7月の動向</p> <p>今月のペソ金利は短期金利PHIBORが上昇する一方で、長期金利は低下傾向となった。5日に発表された6月の消費者物価上昇率は前年比4.6%。この水準はマーケットの予想を下回り、物価の落ち着きを示すものだったが、中銀関係者のコメントは引き続きインフレ警戒的で、28日の金融理事会に向けて短期金利は上昇傾向を辿った。開催された理事会は、前回6月16日の開催時と同様の結果となり、政策金利が据え置かれる一方、準備預金率の1%ポイントの引き上げ(20%→21%)が決定された。月初3.75%であった3カ月物PHIBORは理事会開催前の25日に4.125%まで上昇するも、理事会決定を受けて月初と同じ水準の3.75%まで戻しての越月となった。国債INDEXであるPDST-Fは引き続きペソ高狙いと思しき海外からの債券投資の流入により利回りが低下。月初4.5288%であった3年物の利回りは月末には昨年12月末以来の水準である4.0808%まで低下した。</p> |
| <p>8月の展望</p> <p>今月のペソ金利は引き続き落ち着いた展開が予想される。先月、一時的に上昇した短期金利も月末にかけては落ち着きを取り戻しており、原油価格の安定を背景にインフレも現在のところ管理可能な範囲内にある。加えて、米国を初めとした先進諸国の景気減速感が急速に高まっており、金利上昇は抑制されよう。但し中銀の見方としては、インフレのピークは第4四半期であることから、引き続きインフレ警戒モードは継続、年末までに政策金利が5%になるとの見方は不変。</p> |



| | | Mar-11 | May-11 | Jun-11 | Jul-11 | Aug-11(予想) | |
|----|---|--------|--------|--------|--------|-------------|--------|
| 為替 | 比中銀(BSP) Reference Rate (JPY/PHP) | 0.5241 | 0.5348 | 0.5387 | 0.5432 | | |
| | Philippines Dealing System Rate (USD/PHP) | Open | 43.500 | 42.710 | 43.210 | 43.280 | |
| | | High | 44.020 | 43.600 | 43.660 | 43.335 | 43.000 |
| | | Low | 43.250 | 42.635 | 43.115 | 42.080 | 41.600 |
| | | Close | 43.350 | 43.250 | 43.330 | 42.140 | |
| 金利 | 中銀レート | 4.25 | 4.50 | 4.50 | 4.50 | 4.50 | |
| | PHIBOR (1M) | 2.1250 | 3.0625 | 3.7500 | 3.7500 | 3.50%-4.00% | |
| | コールローンレート | 4.3750 | 4.6875 | 4.6250 | 4.6563 | 4.50%-5.00% | |
| | 91日物政府債 | 1.2231 | 2.6923 | 3.1038 | 2.5577 | 2.50-3.50% | |

(マニラ支店)

1. マクロ経済動向

➤ **第2四半期の実質 GDP 成長率は前年比 0.9%**

第2四半期の実質 GDP 成長率（改定値）は、前年比 0.9%（前期比年率▲6.5%）と大幅に減速した。製造業は、エレクトロニクス輸出の伸び悩みや一部医薬品メーカーによる生産停止などが下押し要因となった。サービス業は、貿易取引や株式取引の伸び悩みを主因に鈍化したものの、観光客の増加などを背景に堅調を維持した。

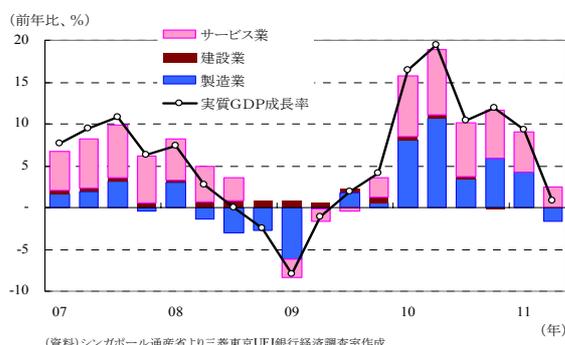
➤ **6月の製造業生産は前年比+10.5%**

6月の製造業生産指数は、前年比+10.5%と3カ月ぶりにプラスの伸びを回復した。エレクトロニクスの伸び悩みが続く中、バイオ医薬品が持ち直したほか、化学品、精密エンジニアリングなどが堅調に推移した。他方、7月の製造業購買マネージャー指数（PMI）は、世界経済及び輸出の先行き不透明感などを反映し、49.3ポイント（前月：50.8）と10カ月振りに好不況の判断基準となる50ポイントを下回った。

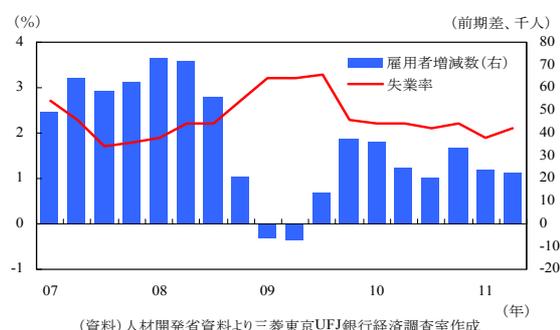
➤ **第2四半期の失業率は2.1%**

第2四半期の失業率（速報値、季節調整値）は2.1%と前期（1.9%）から小幅上昇した。雇用削減数の減少に加え、製造業および建設業では雇用拡大の動きが強まったものの、サービス業での雇用拡大ペースが鈍化した。

第1図：実質 GDP 成長率の推移



第2図：失業率の推移



シンガポールの主要経済指標

| | 2008 | 2009 | 2010 | 10/7-9 | 10-12 | 11/1-3 | 4-6 | 11/4 | 11/5 | 11/6 | 11/7 |
|----------------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 名目 GDP (10億ドル) | 189 | 183 | 223 | | | | | | | | |
| 人口 (100万人) | 4.84 | 4.99 | 5.07 | | | | | | | | |
| 1人あたり GDP (ドル) | 39,131 | 36,740 | 43,925 | | | | | | | | |
| 実質 GDP 成長率 (前年比、%) | (1.5) | (▲0.8) | (14.5) | (10.5) | (12.0) | (9.3) | (0.9) | | | | |
| 製造業生産指数 (前年比、%) | (▲4.2) | (▲4.2) | (29.7) | (13.7) | (25.7) | (16.5) | (▲5.9) | (▲9.2) | (▲16.2) | (10.5) | |
| 実質小売売上高指数 (前年比、%) | (▲1.7) | (▲9.3) | (▲2.5) | (2.0) | (2.6) | (▲5.1) | | (6.1) | (7.9) | | |
| 消費者物価指数 (前年比、%) | (6.6) | (0.6) | (2.8) | (3.4) | (4.0) | (5.2) | (4.7) | (4.5) | (4.5) | (5.2) | |
| 輸出 (FOB) (100万Sドル) | 476,762 | 391,127 | 478,879 | 125,050 | 123,762 | 124,650 | 128,372 | 42,532 | 42,324 | 43,517 | |
| (前年比、%) | (5.8) | (▲18.0) | (22.4) | (20.0) | (14.5) | (13.4) | (6.8) | (4.9) | (9.6) | (6.2) | |
| 輸入 (CIF) (100万Sドル) | 450,893 | 356,301 | 423,231 | 109,291 | 106,756 | 110,071 | 116,278 | 38,141 | 39,281 | 38,856 | |
| (前年比、%) | (13.9) | (▲21.0) | (18.8) | (15.6) | (9.7) | (10.2) | (8.4) | (4.5) | (18.0) | (3.7) | |
| 貿易収支 (100万Sドル) | 25,870 | 34,811 | 55,648 | 15,760 | 17,006 | 14,579 | 12,095 | 4,391 | 3,042 | 4,661 | |
| 経常収支 (100万ドル) | 27,620 | 34,905 | 49,454 | 14,093 | 12,064 | 13,529 | 11,619 | | | | |
| 外貨準備高 (除く金) (100万ドル) | 174,196 | 187,809 | 225,754 | 214,662 | 225,754 | 234,205 | 242,287 | 242,524 | 239,943 | 242,287 | |
| SIBOR3カ月(Sドル、%)◎ | 1.00 | 0.69 | 0.44 | 0.50 | 0.44 | 0.44 | 0.44 | 0.44 | 0.44 | 0.44 | 0.44 |
| 為替 (Sドル/USドル)* | 1.415 | 1.455 | 1.364 | 1.357 | 1.303 | 1.278 | 1.240 | 1.248 | 1.237 | 1.235 | 1.217 |
| 株価指数◎ | 1,761.6 | 2,897.6 | 3,190.0 | 3,097.6 | 3,190.0 | 3,105.9 | 3,120.4 | 3,179.9 | 3,159.9 | 3,120.4 | 3,189.3 |

(注) *印：期中平均値、◎印：期末値。
 (資料) シンガポール統計局、CEICなどより三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

(経済調査室シンガポール駐在)

2. 政治・経済・産業トピックス

| 日付 | トピック |
|------|---|
| 7月6日 | 7月前半の自動車所有権書(COE)入札価格、全ての車種で上昇。 |
| 7日 | 政府系投資会社テマセク・ホールディングス、2011年3月末時点の運用資産総額が過去最高を更新。 |
| 13日 | 5月の実質小売売上高は前年比+7.9%(除く自動車では同+6.0%)。 |
| 14日 | 第2四半期の実質GDP成長率(速報値)は前年比0.5%。 |
| 15日 | 6月の民間住宅販売戸数は1,182戸(前月比▲25%)。 政府、8月から2012年2月までの自動車所有権証明書(COE)発効枠、1600cc以上を現行比▲16.6%削減。 |
| 18日 | 6月の非石油地場輸出(NODX)は前年比+1.1%。 |
| 21日 | 7月後半の自動車所有権書(COE)入札価格、二輪車を除き値上がり。 シンガポール通貨庁(MAS)、2011年の物価見通しを引き上げ(下記①)。 |
| 22日 | 第2四半期の民間住宅価格指数(改訂値)、前期比+2.0%。 |
| 23日 | 6月の消費者物価上昇率は前年比5.2%。 |
| 26日 | 6月の製造業生産は前年比+10.5%。 政府投資公社(GIC)、2011年3月期の年次報告書を公表、過去20年間の名目運用利回りは年7.2%。 シンガポールと中国政府、自由貿易協定(FTA)改定議定書を締結(下記②)。 |
| 28日 | MAS、2012年1月から特定の金融商品を販売する金融機関に対し、顧客の投資適性審査を義務付ける方針。 |
| 29日 | 第2四半期の失業率は2.1%。 第2四半期の住宅ローン新規設定額は前期比▲4.2%(下記③)。 |
| 8月1日 | シンガポール取引所(SGX)、昼休みを廃止終日連日取引を開始。 リー首相、経済開発局(EDB)創設50周年記念パーティーで演説、経済政策の基本は不変との方針を強調。 |
| 2日 | 7月の製造業購買マネージャー指数(PMI)は49.3ポイント。 |

①シンガポール通貨庁(MAS)、2011年の物価見通しを引き上げ

7月21日、シンガポール通貨庁(MAS、中央銀行)が2010年度(2011年3月期)年次報告書を公表。この際、2011年の物価見通しを前年比4~5%(従来:同3~4%)へ引き上げた。これまでの住居費および自動車所有権書(COE)価格高騰に伴う自動車購入費用の上昇が主な要因。今後のインフレ要因としては、労働需給逼迫や国際商品価格上昇などを指摘した。他方、実質GDP成長率は前年比5~7%で据え置いたものの、今後の回復次第ではレンジの下半分にとどまる可能性を示唆した。

②シンガポールと中国政府、FTA改定議定書を締結

7月27日、シンガポールと中国政府は、「中国-シンガポール自由貿易協定(CSFTA)」(2009年1月発効)の改定議定書を締結した(2011年10月発効予定)。シンガポールから中国への輸出品に関する原産地証明の適用や発行期日の柔軟化のほか、中国国内でのサービス提供業務に関する規制緩和などが盛り込まれた。

③第2四半期の住宅ローン新規設定額は減少

7月29日、MASが公表した住宅ローン統計によると、第2四半期の住宅ローン新規設定額は128.6億Sドル(前期比▲4.2%)、うち住宅購入目的が92.9億Sドル(同▲5.3%)、投資目的が35.7億Sドル(同▲1.3%)へそれぞれ減少した。

(経済調査室シンガポール駐在)

3. 市場動向

(1) 為替

7月の動向～米量的緩和示唆と米債務上限問題による米ドル売りにより史上最高値を更新(レンジ:1.1993-1.2317)

7月のシンガポールドルは月半ばに急伸し史上最高値を更新。月初1.22台後半でオープンしたSGDは米ISM製造業景況指数の反発から地合い強くスタートし1.2176の史上最高値を現示した後、米雇用統計が市場予想を下回ったことや、欧州債務問題の周縁国への波及が懸念され月半ばまでに1.23台前半まで軟化。しかし、13日(水)にFRBバーナンキ議長が「QEIIIも選択肢の一つ」と発言すると地合い一変。米ドル売り加速によりSGDは急伸し、欧州財政懸念の一服や米企業好決算を受けた株高も重なり、リスクオンの動きから連日の史上最高値更新となった。月末にかけてもシンガポール消費者物価指数(CPI)が強い結果となり、当局が一層の通貨高容認姿勢を強めるとの見方が広がる中、1.20を割り込み月間最高値となる1.1993を記録。ただしこの水準では当局介入も観測された他、米債務問題の帰趨を見極めたいとの思惑から上値は抑えられ、米第2四半期GDP成長率(速報値)が市場予想を下回るとリスク回避により1.20台半ばまで軟化して月を終えた。

8月の展望～高値圏レンジ相場(1ヶ月予想レンジ:1.1800-1.2300、3ヶ月予想レンジ:1.1700-1.2400)

8月のSGDは上値の重い推移を見込む。米債務上限問題についてデフォルトが回避されたことで米ドル売り圧力については緩和するものと見られる。先月のSGDが固有の要因というよりもむしろ米ドル売りによる上昇であったことを考えると米債務上限問題の収束によりSGDが先月同様に高値を切り上げていくことは考えづらいだろう。今後の焦点としては結局米国経済に底入れが見られるかどうかにかかると考えている。これについては米ISM製造業が市場予想を下回ることになったが景気後退を示唆する50は未だ割り込んでおらず、東日本大震災によるサプライチェーン問題も回復していることから一連の弱い米経済指標は米国経済のソフトパッチを示しているに過ぎないと考えている。こうした中、ASEAN域内への力強い資本流入が継続しており、シンガポール消費者物価指数も強い結果となったことからSGDの下値不安は後退していると言える。しかしながら先月の上昇が主に米ドル売りによるものであったということと、一方で米国価格下げに関しても足許では米国債は売られておらず市場での影響は限定的と考えられることから、米ドル売り圧力低下に伴いSGDは上値の重い推移となるだろう。

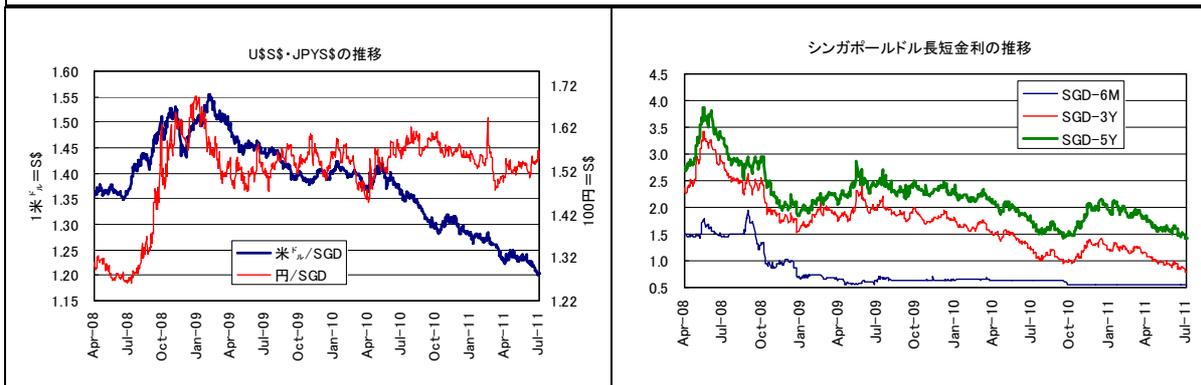
(2) 金利

7月の動向

7月のSGD長期金利は下落。米債務上限問題の決着が期限間際までずれ込んだことと、米格付機関が米国債の格付下げを検討したことで世界的に月末にかけて株価が軟調となり、全体的にリスク回避姿勢が広がった。こうした流れから米国長期金利の低下基調も続いたことでSGD長期金利も月間を通じてじりじりと低下し、米第2四半期GDP成長率(速報値)が市場予想を下回ると大きく下落して月を終えた。一方SGD短期金利は横這いで推移し3ヶ月SIBORは前月末比不変の0.44%、10年スワップレートは同▲24bpの2.46%で引けた。

8月の展望

8月のSGD金利は、横這い推移を予想。足許では米ISM製造業が市場予想を下回ることとなったが景気後退を示唆する50は割り込んでおらず、春先までの景気拡大の調整と考えることができる。米債務上限問題も決着したことで世界的なリスク回避姿勢も幾分和らぎ米長期金利は横這いで推移すると見ている。短期金利についても足許の雇用・物価動向ではFRBも一先ず現状の金融緩和策を継続するものと考えられるため、引き続き低位安定を見込む。



| | | 10/12 | 11/3 | 11/6 | 11/7 | 11/8 (予想) | 11/11 (予想) |
|----|---------------------------------|---------|--------|--------|--------|-------------------|-------------------|
| 為替 | 弊行カウンターレート (USD/SGD) (月末) | TTM | 1.2881 | 1.2606 | 1.2316 | 1.2033 | |
| | | Buying | 1.2781 | 1.2506 | 1.2216 | 1.1933 | |
| | | Selling | 1.2981 | 1.2706 | 1.2416 | 1.2133 | |
| | 月末終値 | USD/SGD | 1.2820 | 1.2604 | 1.2280 | 1.2025 | 1.1800- 1.2300 |
| | JPY/SGD | 1.5789 | 1.5148 | 1.5245 | 1.5494 | 1.4700- 1.5700 | 1.4400- 1.5900 |

(アセアン金融市場部)

1. マクロ経済動向

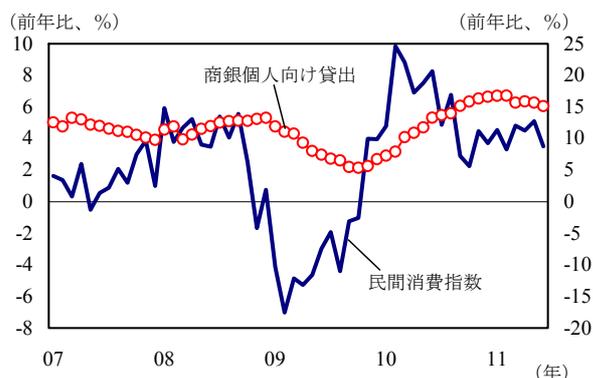
➤ **6月の民間消費は前年比+3.5%と堅調**

6月の民間消費は前年比+3.5%と前月（同+5.1%）から鈍化したものの、堅調を維持した。雇用環境が良好であることに加え、個人向けの貸出が消費を下支えている。5月の失業率（季節調整値）は0.5%と完全雇用に近い状況が続いている。また、6月の商業銀行の個人向け貸出残高は前年比+15.1%と高い伸びとなった。

➤ **6月の製造業生産は前年比+3.3%**

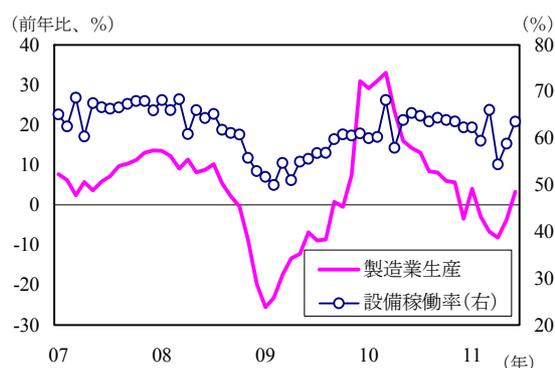
6月の製造業生産は前年比+3.3%と5か月ぶりにプラスに転じた。日本の震災によるサプライチェーン障害により大幅に落ち込んでいた自動車（同▲2.8%）のマイナス幅が縮小したほか、電子製品（同+12.8%）やHDD（同+12.5%）が二桁増となった。生産の増加に伴い6月の設備稼働率は63.6%と前月（58.8%）から上昇した。

第1図：消費関連指数



(資料) CEICより三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

第2図：製造業生産



(資料) CEICより三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

タイの主要経済指標

| | 2008 | 2009 | 2010 | 10/7-9 | 10-12 | 11/1-3 | 4-6 | 11/4 | 11/5 | 11/6 | 11/7 |
|----------------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 名目GDP (10億ドル) | 272 | 264 | 319 | | | | | | | | |
| 人口 (100万人) | 63.4 | 63.5 | 63.9 | | | | | | | | |
| 1人あたりGDP (ドル) | 4,298 | 4,155 | 4,989 | | | | | | | | |
| 実質GDP成長率 (前年比、%) | (2.5) | (▲2.3) | (7.8) | (6.6) | (3.8) | (3.0) | | | | | |
| 製造業生産指数 (前年比、%) | (3.9) | (▲7.2) | (14.4) | (9.8) | (2.6) | (▲2.1) | (▲2.7) | (▲8.1) | (▲3.7) | (3.3) | |
| 民間消費指数 (前年比、%) | (3.6) | (▲2.5) | (5.9) | (4.8) | (3.5) | (4.3) | (4.3) | (4.5) | (5.1) | (3.5) | |
| 自動車販売台数 (台) | 615,270 | 548,871 | 800,357 | 199,657 | 244,008 | 238,619 | 193,393 | 67,283 | 55,851 | 70,259 | |
| (前年比、%) | (▲2.5) | (▲10.8) | (45.8) | (47.8) | (33.8) | (43.1) | (1.8) | (17.8) | (▲10.2) | (▲0.4) | |
| 消費者物価指数 (前年比、%) | (5.5) | (▲0.9) | (3.3) | (3.3) | (2.9) | (3.0) | (4.1) | (4.0) | (4.2) | (4.1) | (4.1) |
| 輸出 (FOB) (100万ドル) | 175,233 | 150,743 | 193,663 | 49,721 | 51,850 | 56,002 | 57,343 | 17,243 | 19,284 | 20,816 | |
| (前年比、%) | (15.9) | (▲14.0) | (28.5) | (22.0) | (21.0) | (27.3) | (19.2) | (24.7) | (17.3) | (16.4) | |
| 輸入 (CIF) (100万ドル) | 175,604 | 131,355 | 179,632 | 46,418 | 47,777 | 52,667 | 55,660 | 17,720 | 19,010 | 18,931 | |
| (前年比、%) | (26.8) | (▲25.2) | (36.8) | (31.0) | (19.0) | (25.6) | (28.0) | (26.3) | (34.4) | (23.5) | |
| 貿易収支 (100万ドル) | ▲371 | 19,388 | 14,031 | 3,303 | 4,072 | 3,334 | 1,683 | ▲477 | 274 | 1,886 | |
| 経常収支 (100万ドル) | 2,157 | 21,866 | 14,784 | 2,047 | 5,509 | 6,795 | 1,823 | ▲165 | ▲511 | 2,499 | |
| 外貨準備高 (除く金) (100万ドル) | 108,661 | 135,483 | 167,530 | 158,999 | 167,530 | 176,539 | 178,793 | 184,336 | 180,062 | 178,793 | |
| 翌日物レボ金利 (%) ◎ | 2.75 | 1.25 | 2.00 | 1.75 | 2.00 | 2.50 | 3.00 | 2.75 | 2.75 | 3.00 | 3.25 |
| 為替 (パーツ/ドル) * | 32.97 | 34.31 | 31.69 | 31.19 | 29.99 | 30.54 | 30.27 | 30.05 | 30.25 | 30.52 | 30.07 |
| 株価指数◎ | 450.0 | 734.5 | 1,032.8 | 975.3 | 1,032.8 | 1,047.5 | 1,041.5 | 1,093.6 | 1,073.8 | 1,041.5 | 1,133.5 |

(注) *印：期中平均値、◎印：期末値

(資料) タイ中央銀行、NESDB、CEICなどより三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

(経済調査室)

2. 7月の政治・経済・産業トピックス

| Source | |
|---------------------------|---|
| 【政府関連】 | |
| 7月1日 タイ商業省 経済指数事務局 | <p>“6月消費者物価指数、前年比+4.06%”</p> <p>6月の消費者物価指数は112.54、前年比+4.06%と3ヶ月連続で4%を上回った。ヤンヨン商業次官は7月は3.5%程度となり、第3四半期は3.6%になるとの見通しを示した。通年は当初予想内の3.7%になると見ている。生鮮食品とエネルギーを除く6月のコアインフレは前年比+2.55%、中銀ターゲットの0.5~3.0%の範囲にとどまった。</p> |
| 7月3日~ 一般報道 | <p>“タイ総選挙、親タクシン派タイ貢献党が過半数獲得、2年半ぶり政権交代へ”</p> <p>タイ下院総選挙の投開票が3日行われ、タクシン元首相派の野党タイ貢献党が265議席で過半数を獲得、2年半ぶりの政権交代となった。次期首相候補、インラック氏は5党が(1)国民和解(2)12月の国王誕生日関連の祝賀式典の実施(3)インフレ対策(4)外国との関係回復(5)公務員改革、汚職問題への取り組み、の5点に取り組んでいくことで合意したと述べた。</p> |
| 7月7日 一般報道 | <p>“インラック氏、為替政策は現行制度を維持”</p> <p>次期財務相候補の一人、スチャート氏が外為管理について「シンガポールや中国のような管理フローと制に変更すべき」と述べたことに対し、インラック氏は「スチャート氏の発言はタイ貢献党の政策ではない。」「為替管理の問題は慎重に対応しなければならない。新政府は現行の制度を維持していく。」と述べた。</p> |
| 7月21日 タイ商業省 | <p>“6月輸出、210.7億ドル、前年比+16.8%”</p> <p>通関ベース貿易統計によると、6月輸出は前年比+16.8%の210.7億ドル、今年3月の212億ドル超に次ぐ水準となった。一方、6月の輸入は同+26.1%の198.1億ドル、1~6月累計の貿易黒字額は34.5億ドルとなった。</p> |
| 【中銀関連】 | |
| 7月13日 タイ中央銀行 | <p>“タイ中銀、政策金利を0.25%引き上げ3.25%へ”</p> <p>タイ中央銀行は13日のMPC(金融政策委員会)にて、政策金利(翌日物レポ金利)を3.00%から3.25%に引き上げることを決定した。政策金利の引き上げは、昨年12月から6回連続。パイブーン総裁補はインフレ圧力について、エネルギー価格の上昇と調理済み食品の価格上昇が続いていると指摘。新政権誕生で、経済成長を目的にした財政支出が行われれば、さらにインフレが進行する恐れがあるとし、MPCは全会一致で金利引き上げを判断した。次回MPCは8月24日の予定。</p> |
| 7月22日 タイ中央銀行 | <p>“タイ中銀、コアインフレ率予想を引き上げ”</p> <p>タイ中銀はインフレーションレポート最新版を発表、コアインフレ率が今年2.4%になると予想、前回4月末から0.1%引き上げた。来年は2.3%と予想、同0.2%引き上げた。また今年のGDP成長率は4.1%、来年4.2%とし、これまでの見通しを据え置いた。パイブーン中銀総裁補佐はタイ貢献党が最低賃金を300パーツに引き上げることを公約している点について、「インフレ率を引き上げ可能性がある」と指摘した。</p> |
| 7月29日 タイ中央銀行 | <p>“タイ中銀、月例経済報告”</p> <p>タイ中央銀行は、6月月例経済報告(速報値)を発表した。主なデータは以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 6月鉱工業生産指数 : 前年比3.32% (前月実績▲3.72%) ○ 6月設備稼働率 : 63.6 (前月実績58.8) ○ 民間消費指数 : 前年比+3.5% (前月実績+5.1%) ○ 民間投資指数 : 前年比+7.4% (前月実績+11.1%) ○ 輸出額伸び率 : 前年比+16.4%/輸出額 : 20,816 百万米ドル ○ 輸入額伸び率 : 前年比+23.5%/輸入額 : 18,913 百万米ドル ○ 貿易収支 : 1,886 百万米ドル (前月実績274 百万米ドル) ○ 経常収支 : 2,499 百万米ドル (前月実績▲511 百万米ドル) |
| 【その他】 | |
| 7月14日 タイ商工会議所 大学研究所 | <p>“6月消費者信頼感指数、2ヶ月連続上昇”</p> <p>6月の消費者信頼感指数は2ヶ月連続上昇し、前月の80.4から81.7となった。指数が上昇したのは、総選挙に向けた選挙運動で消費が拡大し、経済活性化に繋がった他、選挙後の経済改善への期待が高まっているためと見られる。経済情勢に関する信頼感指数も前月の71.1から72.3に上昇した。</p> |
| 7月20日 FTI自動車部会 | <p>“6月の自動車生産、15万台強に回復、通年は180万台目標達成へ”</p> <p>6月のタイ国内の自動車生産台数は前月の10万台未満から15万3,546台に回復し、前年比で+3.1%となった模様。東日本大震災の影響から立ち直り、生産はほぼ正常化した。1~6月の生産台数は前年同期比+5.4%の81万台強。うち、輸出向け生産は同▲2.7%の約41万台、国内販売用の生産は同15.4%の約40万台となった。</p> |
| 7月22日 タイ投資促進委員会(BOI) | <p>“1~6月の海外直接投資+70%、日本の申請増加”</p> <p>BOIによると、外国資本が10%以上ある企業の1~6月の投資促進権申請件数は、前年比+39.2%の522件で、それに伴うタイへの海外直接投資(FDI)は同+70.1%の約1,673億パーツとなった。日本からの投資申請は272件、総額は約722億パーツとなり、前年同期比、件数で121件、金額は336億パーツそれぞれ増加した。</p> |

(バンコック支店)

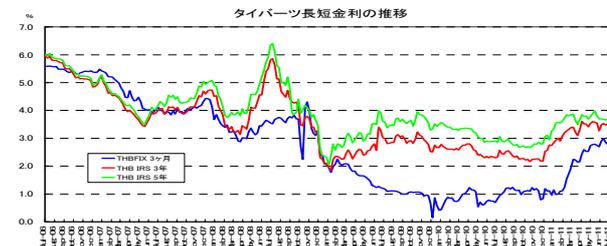
3. 市場動向

(1) 為替

| |
|--|
| 7月の動向～パーツは総選挙を終え、反転上昇へ（7月のレンジ：29.67－30.56） |
| 7月のパーツ相場(対ドル)は6月末終値比20サタンパーツ高となるパーツの月間安値30.56でオープン。タイ下院総選挙はタイ貢献党の圧勝となり、政情懸念の剥落、政治的安定への期待感からパーツは強含んで推移。財務相候補による、為替の管理フロート制採用に関する発言から戻す局面もあったが、インラック氏が火消しするとパーツ買いの流れは止まらず30.10台まで上昇。月央には弱い米雇用統計、タイ民主党による司法クーデターへの懸念から一時30.40台へ下落したが、タイ中銀による追加利上げ、タカ派コメントを受け、上昇地合いへ。さらに米バーナンキFRB議長が量的緩和第三弾へ含みを持たせる発言をすると、全般的な米ドル売りの流れからパーツは30.00台まで上昇した。同水準では中銀によるパーツ高抑制姿勢への警戒感から上値重く推移したが、旺盛な海外投資家による資金流入を背景にSETタイ国内株価指数が上昇すると、心理的な節目となる30.00割れ。さらに株式、債券両市場にて連日海外投資家が大幅に買い越し、米債務上限問題への懸念が米ドル売りに拍車をかけるとパーツは上伸。月間高値となる29.67まで上昇し、結局29.80にて越月。 |
| 8月の展望～外部環境の動向睨みつつ、パーツは一進一退か（8月の予想レンジ：29.40－30.40） |
| 7月、総選挙後のセンチメント好転を受け、対ドルでアジア通貨で最高となる+3%の上昇率を示現したパーツ。しかし、年初からの軟調推移を取り戻したに過ぎず、他アジア通貨との比較では、年初来5%を超えて上昇したインドネシアやシンガポールに大きく遅れをとっている。2011年上半年の外国人投資家による証券収支はほぼフラット、7月以降再び資金流入の傾向をみせているが過熱感は薄い。即ち、パーツの上値余地が示唆されると同時に、アジア資産下落時の耐久力も相応に見込まれる状況か。一方、国内ではプラタイの公約実現によるインフレ高進が懸念される中、通貨抑制策としての通貨高も意識され始めている。アジア通貨に買いが集まる局面では、パーツは選好され易い。パーツのリスク要因は、米経済の不振を背景とした世界経済二番底懸念、及び欧州ソブリンリスクであり、主に外部環境。8月に入り金融危機時を彷彿とさせるリスク収縮が見られており、リスク資産全体の大幅調整リスクには要注意。パーツにとっては逆風の局面。但し、今後の世界経済のエンジンたるアジアの位置づけは明確であり、足許のタイを巡る証券収支は相応に安定推移を維持、パーツが大崩れする懸念は小さいと見ている。 |

(2) 金利動向

| |
|--|
| 7月の動向～金利は全般的に大幅上昇 |
| 月初6月タイ消費者物価指数は、3ヶ月連続4%となる、前年同期比+4.06%、コア指数は+2.55%へ上昇した。内容自体は事前予想内となり市場の反応は乏しかったが、月初大きな材料となったのは、ギリシャ債務懸念に対する楽観論から派生した世界的な株高、商品高の流れ。リスク選好度の高まりが安全資産としての債券売りを促し、パーツ金利は急騰した。タイ総選挙は、親タクシン派であるタイ貢献党の圧勝となったが、同党が掲げる諸公約が更なるインフレをもたらすとの思惑が、金利上昇を後押しした点も否めない。米雇用統計は事前予想を大幅に下回る内容となり、米金利は低下。その後も債務上限問題への警戒感から米市場では株売り、債券買いがじわりと進み、米金利は緩やかに低下した。一方、国内では13日にタイ中銀が政策金利を0.25%引き上げ、政策金利は3.25%へ。声明文の内容もタカ派な内容となり、金利は引き続き高水準で推移。過熱感を警戒してか、ブラサーン中銀総裁が追加利上げに対し否定的なコメントを出す局面もあったが、発表となった中銀インフレーションレポートでは、年内及び来年のコアインフレ率予想を引き上げ。また中銀総裁補から追加利上げを示唆する発言が続き、月末週には米金利の低下を横目に、月間最高水準までパーツ金利は上昇し、そのまま越月した。 |
| 8月の展望～米債動向に振られる展開 |
| 7月タイ消費者物価指数は、前年同月比+4.08%、コア指数は+2.59%となり、引き続き高水準にて推移。インラック新首相が誕生し、新政権による選挙公約の遂行が更なるインフレ率の上昇をもたらすとの思惑は燃り、8月24日MPCでの追加利上げ可能性も高まっている。またブラサーン中銀総裁は、今年のGDP成長率予想を上方修正。タイの堅調なファンダメンタルズが全般的な金利上昇を促すとの見方は変えていない。一方、月初、米債務上限問題は一旦解決を見たものの、今後米経済が緊縮財政を迫られる中、二番底に陥るとの見方からNYダウは急落。米債利回りはQE2以前の水準まで低下した。またイタリア、スペインに波及した欧州債務懸念もマーケットのリスク回避志向を高めており、パーツ金利も歩調を合わせるように下落。7月の金利上昇分を吐き出す格好となっている。米超量的緩和第三弾への思惑が燃る中、パーツ金利は外部環境による影響を受けやすい展開となろう。タイMPCでは+0.25%の利上げ、政策金利は3.50%となるシナリオが現状は有力。上記、米債動向により中長期金利の頭が重くなる展開が予想される中、イールドカーブはフラットニングするだろう。 |



| | | 2011/03 | 2011/04 | 2011/05 | 2011/06 | 2011/07 | 2011/8 (予想) |
|-------|---------------------|----------|----------|----------|----------|----------|-------------|
| 為替 | タイ中銀 Reference Rate | 30.295 | 29.881 | 30.301 | 30.745 | 29.740 | |
| | 弊行カウンターレート | | | | | | |
| | USD/THB TTM | 30.33 | 29.96 | 30.32 | 30.75 | 29.79 | |
| | TT-Buying | 30.08 | 29.71 | 30.07 | 30.50 | 29.54 | |
| | TT-Selling | 30.58 | 30.21 | 30.57 | 31.00 | 30.04 | |
| 金利・株式 | SPOT | | | | | | |
| | USD/THB | 30.250 | 29.890 | 30.300 | 30.740 | 29.800 | 29.40-30.40 |
| | JPY/THB | 36.390 | 36.810 | 37.165 | 38.158 | 38.827 | 37.50-39.50 |
| | 政策金利(レポレート) | 2.50 | 2.75 | 2.75 | 3.00 | 3.25 | 3.50 |
| | THBFIX (6ヶ月) | 2.64686 | 2.97767 | 2.96130 | 2.99490 | 3.57768 | 3.20-3.70 |
| | 国債 (5年) | 3.41 | 3.38 | 3.50 | 3.78 | 3.86 | 3.50-4.00 |
| | SET指数 | 1,047.48 | 1,093.56 | 1,073.83 | 1,041.48 | 1,133.53 | |

(バンコック支店)

1. マクロ経済動向

➤ 7月の消費者物価上昇率は前年比22.2%

7月の消費者物価上昇率は前年比22.2%と引き続き高進した。食料品(同+32.6%)、交通費(同+21.7%)を始めとする幅広い品目が上昇を続けた。前月比の伸びも+2.1%と、前月(同+1.8%)のペースを上回った。

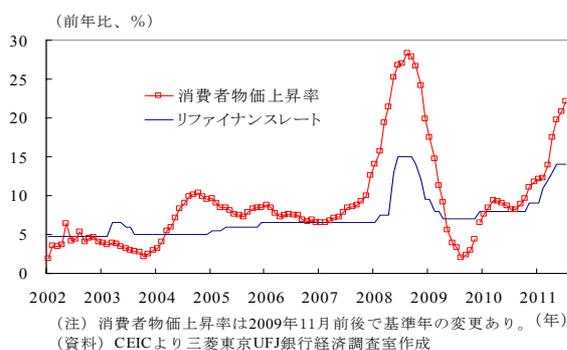
➤ 1-7月期の小売売上高は前年比22.3%

1-7月期の小売売上高は前年比+22.3%と、前年同期(同+26.4%)の伸びを下回った。実質ベースでは同+4.6%の小幅な伸びにとどまり、前年同期(同+16.3%)から大幅にペースダウンした。インフレ圧力が個人消費の伸びを抑制しているとみられる。

➤ 2011年3月末時点の外貨準備高は122.2億ドル

2011年3月末の外貨準備高は122.2億ドルと、2010年末時点(124.7億ドル)より減少した。これは単月の輸入額(2011年1-7月期の平均)の約1.6カ月分に相当。

第1図：消費者物価上昇率



第2図：小売売上高



ベトナムの主要経済指標

| | 2008 | 2009 | 2010 | 10/7-9 | 10-12 | 11/1-3 | 11/4-6 | 11/4 | 11/5 | 11/6 | 11/7 |
|---------------------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 名目GDP (10億ドル) | 91.1 | 97.2 | 103.6 | | | | | | | | |
| 人口 (100万人) (2010年はIMF予測値) | 85.1 | 86.0 | 88.3 | | | | | | | | |
| 1人あたりGDP (ドル) | 1,070 | 1,130 | 1,174 | | | | | | | | |
| 実質GDP成長率 (前年比、%) | 6.3 | 5.3 | 6.8 | 7.2 | 7.3 | 5.4 | 5.7 | | | | |
| 鉱工業生産 (前年比、%) ** | 13.9 | 6.8 | 14.0 | 13.5 | 14.0 | 14.3 | 14.3 | 13.7 | 14.4 | 14.3 | |
| 国内自動車販売 (台) *** | 110,202 | 119,561 | 112,224 | 27,251 | 34,104 | 27,826 | 24,681 | 9,409 | 7,661 | 7,611 | 8,544 |
| (前年比、%) | (37.0) | (8.5) | (▲6.1) | (▲16.1) | (▲12.7) | (34.7) | (▲14.9) | (▲1.5) | (▲18.4) | (▲24.3) | (▲9.5) |
| 消費者物価指数 (前年比、%) **** | 23.0 | 6.9 | 9.2 | 8.4 | 10.8 | 12.8 | 19.4 | 17.5 | 19.8 | 20.8 | 22.2 |
| 輸出 (FOB) (100万ドル) | 62,685 | 57,096 | 71,629 | 18,984 | 20,367 | 19,386 | 23,130 | 7,437 | 7,233 | 8,460 | 8,400 |
| (前年比、%) | (29.1) | (▲8.9) | (25.5) | (36.8) | (34.2) | (35.1) | (28.8) | (39.5) | (14.6) | (33.9) | (39.3) |
| 輸入 (CIF) (100万ドル) | 80,714 | 69,949 | 84,004 | 21,232 | 24,034 | 22,784 | 26,204 | 8,930 | 8,654 | 8,620 | 8,600 |
| (前年比、%) | (28.6) | (▲13.3) | (20.1) | (14.5) | (15.6) | (28.2) | (26.4) | (37.5) | (20.5) | (22.1) | (22.7) |
| 貿易収支 (100万ドル) | ▲18,029 | ▲12,853 | ▲12,375 | ▲2,248 | ▲3,666 | ▲3,398 | ▲3,073 | ▲1,492 | ▲1,421 | ▲160 | ▲200 |
| 経常収支 (100万ドル) | ▲10,787 | ▲6,117 | | 49 | | | | | | | |
| 外貨準備高 (除く金) (100万ドル) | 23,890 | 16,447 | 12,467 | 14,111 | 12,467 | 12,220 | | | | | |
| リファイナンスレート ◎ | 9.50 | 8.00 | 9.00 | 8.00 | 9.00 | 12.00 | 14.00 | 13.00 | 14.00 | 14.00 | 14.00 |
| 政策金利 ◎ | 8.50 | 8.00 | 9.00 | 8.00 | 9.00 | 9.00 | 9.00 | 9.00 | 9.00 | 9.00 | 9.00 |
| 為替 (ドン/ドル) * | 16302.0 | 17065.0 | 19121.3 | 19276.3 | 19494.7 | 20230.7 | 20696.7 | 20854.0 | 20636.0 | 20600.0 | 20584.0 |
| 株価指数 ◎ | 315.62 | 494.77 | 484.66 | 454.52 | 484.66 | 461.13 | 432.54 | 480.08 | 421.37 | 432.54 | 405.70 |

(注) *印：期中平均(月次、四半期はBloomberg、暦年はIMF参照)、◎印：期末値 **：年初からの累計
：国内販売合計。*消費者物価指数は2009年11月から新基準(2008年11月=100)。2009年10月以前の月次の伸び率は、旧基準に基づくもの。鉱工業生産の年初からの累計値、2011年7月分は未公表。

(資料) CEIC、中銀資料、IMFなどより三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

(経済調査室)

2. 政治・経済・産業トピックス

| 日付 | トピック |
|------|---|
| 7月1日 | 2011年1-6月期の外国直接投資(FDI)新規認可額は44億ドル(前年比▲43.3%)、認可件数は455件。 |
| 15日 | 政府、2011年上半期の実績と下半期の主な施策を公表(下記①)。 政府、電力の自由市場の試験運用開始。 |
| 4日 | 中銀、リバース・レポ金利を100bps引き下げ(15→14%)。 ベトナム共産党第11期中央委員会第2回総会開幕(～10日)。 |
| 8日 | 計画投資省、2012年の実質GDP成長率目標を6.5%に設定。 |
| 21日 | 第13期(2011～16年)第1回国会開幕(下記②)。 |
| 24日 | 7月の消費者物価上昇率は前年比22.16%。 |
| 27日 | 商工省、2020年までの自動車産業育成策の最終案を提出。 |
| 29日 | 7月の貿易赤字は▲2億ドル。 7月の鉱工業生産は前年比+9.6%。 |
| 8月2日 | 国会、ズン首相が提出した内閣組閣案を採択。 財務省、金含有量80%以上の宝飾品に対し10%の輸出関税を適用する通達を交付(6日～)。 |
| 3日 | 第3次ズン内閣が発足(下記②)。 財務省、マクロ経済安定化および歳出抑制の一環として、公用車購入を停止。 |
| 4日 | 政府、9月11日から石炭輸出に課す関税を現行の15%から20%へ引き上げる方針を決定。 |

①政府、2011年上半期の実績と下半期の主な政策を公表

7月15日、政府は、「2011年上半期の経済・社会および国家財政の状況と下半期の施策に関する報告」を公表。上期の実績としては、消費者物価指数の上昇ペースの鈍化、為替・金市場の安定化、金利の低下、銀行システムの流動性改善、公共投資および政府支出の削減を通じたインフレ抑制、貿易赤字の削減などを挙げた。一方、下半期に取り組む主な施策としては、非生産部門（不動産、証券）を中心とした銀行貸出の抑制、効果的かつ柔軟な金融政策を通じたインフレ抑制と高金利の是正、公共投資や国有企業による非効率な投資の削減、貧困削減などを目指す方針を掲げた。

②国会開幕、第3次ズン内閣が発足

7月21日、第13期（2011～16年）第1回国会が開幕。8月3日には第3次ズン内閣が発足した（任期5年）。サン共産党書記局常務が国家主席（大統領）に昇格、ズン首相（再任）、ニン副首相（前財務相）、フエ財務相（元国家監査院長）が経済政策運営の中核的役割を担うほか、中銀副総裁から昇格したビン新中銀総裁が金融政策を担当する。

（経済調査室 シンガポール駐在）

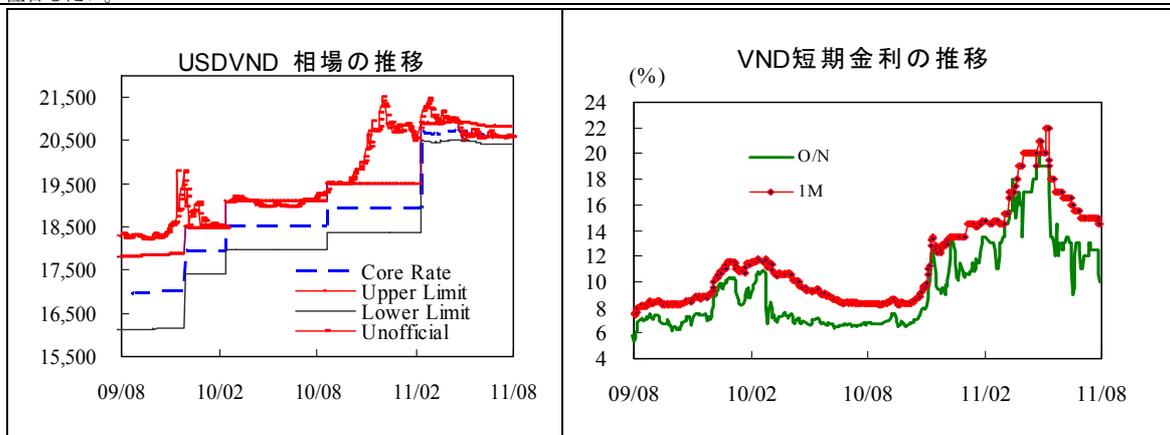
3. 市場動向

(1) 為替

| |
|--|
| <p>7月の動向～USD/VNDは中銀コアレートのやや下で極めて安定的に推移： CORE Rateレンジ：20,608-20,618</p> <p>7月1日に国営企業の保有外貨強制売却強化規制が発動、中銀が7月分として見込んだドル売り額17億ドルには大きく及ばなかった模様であるが、金の国際価格史上最高値更新に伴う金輸出増を背景に6、7月の貿易赤字が大幅に改善したことや、企業が借入れ通貨を金利の高いVNDではなくドル建てにしVNDに変換する動き等も手伝い市場のドル買い圧力が緩和、7月のUSD/VND相場は20日の日中に一時的に20,700を上回る水準までVND安となる局面が見られた以外は、概ね中銀コアレートのやや下で安定的に推移し、終値ベースで見た月中の取引レンジは20,565-20,605（40ポイント幅）と極めて狭い値幅内での取引に終始した。</p> |
| <p>8月の展望～4カ月ぶりに復活したUSD/VNDの二重相場が継続する懸念： CORE Rate予想レンジ：20,575-20,750</p> <p>8月に入り米国価格下げを含む欧米債務問題や世界経済減速懸念を背景にグローバル金融市場が俄かに波乱含みの展開となる中、投資家のリスク回避行動に伴う金国際価格の急伸が当地国民の元来の金選好に火を付ける形で国内価格が国際価格を一気に大きく上回ると、ここ2ヶ月間継続した金輸出の動きが一転して金輸入に変化、USD買い圧力の噴出から8月9日に中銀上限レートを突き抜け約4ヶ月ぶりに二重相場が復活した。G7協調やFEDによる金融緩和継続等により混乱が早期収束に向かいリスク回避行動が緩和すれば二重相場解消の可能性もあるものの、ベトナム固有要因を見ても、インフレ加速、貿易赤字再拡大、直接・間接投資減少、急増するUSDローンの満期返済に伴うドル買い圧力等、VND安懸念材料に事欠かず、当面二重相場が継続する懸念が大きい。</p> |

(2) 金利

| |
|--|
| <p>7月の動向～中銀が公開市場操作金利を1%引下げ、金利は全タームで小幅低下</p> <p>7月4日に中銀は政策金利の一角である公開市場操作金利を15%から14%に引下げ即日実施した。実勢金利水準に合わせた柔軟な対応の一環に過ぎないものと思われまたザウ総裁からも金融緩和の始まりを示すものではないとの説明があったが、市場では現下のインフレ状況に鑑みれば時期尚早な利下げだとして反発・懸念する向きが多い。実際7月のCPI上昇率は前年同月比で22.16%に加速、一方で融資総量規制によって銀行のVND資金需要が減退している状況にも拘らず中銀はVNDの流動性を潤沢な水準に維持しており、結果として短期金利は前月に続き全タームで小幅低下となった。なおビン中銀副総裁がザウ中銀総裁の後任として総裁に就任することが正式に発表された。</p> |
| <p>8月の展望～国内インフレ加速とグローバル金融・経済波乱が懸念される中、中銀新総裁の舵取りに注目</p> <p>当地メディアでは引続き食料品を中心に値上げを報じる記事が多くもはや2011年のインフレ率目標である15～17%の達成はほぼ不可能。中銀は今年4月～5月にかけて行ったような金融引締め路線への回帰が必要な状況にある一方で、同時にグローバル金融市場の混乱及び世界景気減速懸念も念頭に置いた微妙な舵取りが求められよう。ザウ総裁が政府中枢の意向に恭順との評価に対し、中銀の所謂生え抜きであるビン新総裁は原理原則に立脚した独立的な判断・実行が期待できる人物との見方もあり、8月3日に就任した新総裁の動向に注目したい。</p> |



| | | Sep-10 | Dec-10 | Mar-11 | Jun-11 | Jul-11 | |
|-----------------|-------------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 為替 | USD/VND中銀COREレート | 18,932 | 18,932 | 20,703 | 20,618 | 20,608 | |
| | USD/VND取引バンド上限 | 19,500 | 19,500 | 20,910 | 20,824 | 20,814 | |
| | USD/VND非公式相場/実勢相場 | 19,625 | 20,665 | 20,985 | 20,590 | 20,584 | |
| 弊店公表相場 (TTM) | USD/VND | 19,495 | 19,500 | 20,905 | 20,585 | 20,580 | |
| | JPY/VND | 233.19 | 254.23 | 252.89 | 255.71 | 264.52 | |
| | USD/JPY | 83.60 | 81.50 | 83.00 | 80.50 | 77.80 | |
| 金利 | 銀行間市場* | 1ヵ月物 | 8.30% | 13.50% | 19.00% | 15.00% | 14.50% |

*銀行間市場金利はVNIBOR、但しMar2011以降は実勢金利を使用。

(ホーチミン支店)

1. マクロ経済動向

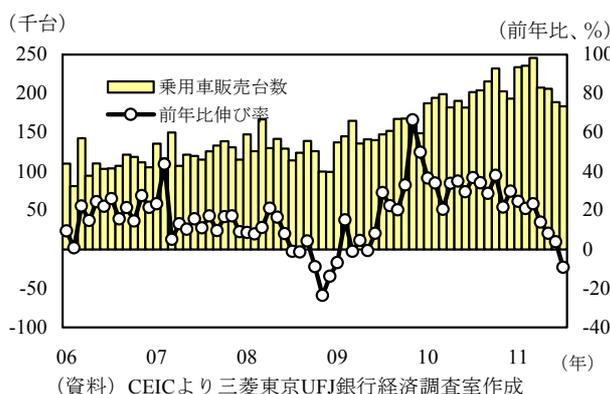
➤ 7月の乗用車販売は前年比▲8.9%、2年2カ月ぶりの前年割れ

7月の乗用車販売台数は18.4万台、前年比▲8.9%と2009年5月以来の前年割れとなった。利上げに伴う自動車ローン金利の上昇やガソリン高の影響で販売が低迷した。他方、商用車は6.4万台（同+23.7%）と高い伸びが持続した。1-7月期の自動車販売台数（乗用車と商用車の合計）は194.0万台（同12.8%）と過去最高を記録した2010年（304万台）を上回るペースを維持している。

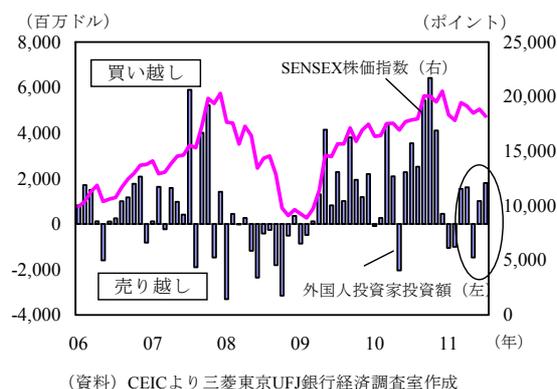
➤ 7月の外国人投資家のネット株式投資額は2カ月連続の買い越し

7月の外国人投資家のネット株式投資額は18.1億ドルと2カ月で買い越しとなった。2010年通年の買い越し額は294億ドルと過去最高を記録したが、2011年1-7月期は24.4億ドルの買い越しにとどまっている。

第1図：乗用車販売



第2図：外国人投資家ネット株式投資額



インドの主要経済指標

| | 08年度 | 09年度 | 10年度 | 10/7-9 | 10-12 | 11/1-3 | 4-6 | 11/4 | 11/5 | 11/6 | 11/7 |
|----------------------|-----------|-----------|-----------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 名目GDP (10億ドル) | 1,108 | 1,214 | 1,267 | | | | | | | | |
| 人口 (100万人) | 1,181 | 1,198 | 1,210 | | | | | | | | |
| 1人あたりGDP (ドル) | 1,028 | 1,058 | 1,321 | | | | | | | | |
| 実質GDP成長率 (前年比、%) | (6.8) | (8.0) | (8.5) | (8.9) | (8.3) | (7.8) | | | | | |
| 鉱工業生産指数 (前年比、%) | (2.5) | (5.3) | (8.2) | (6.8) | (8.6) | (7.7) | | (5.8) | (5.6) | | |
| 乗用車販売台数 (台) | 1,552,723 | 1,949,735 | 2,520,393 | 621,952 | 628,519 | 715,356 | 602,798 | 207,604 | 206,194 | 189,000 | 183,657 |
| (前年比、%) | (0.3) | (25.6) | (29.3) | (33.1) | (29.9) | (23.1) | (8.8) | (14.0) | (8.2) | (4.2) | (▲8.9) |
| 卸売物価指数 (前年比、%) | (8.0) | (3.6) | (9.6) | (9.3) | (8.9) | (9.6) | (9.1) | (9.7) | (9.1) | (9.4) | |
| 消費者物価指数 (前年比、%) | (9.1) | (12.4) | (10.5) | (10.3) | (9.2) | (9.0) | (8.9) | (9.4) | (8.7) | (8.6) | |
| 輸出 (100万ドル) | 185,294 | 178,769 | 241,738 | 50,778 | 63,438 | 73,337 | 79,003 | 23,849 | 25,941 | 29,213 | |
| (前年比、%) | (13.7) | (▲3.5) | (35.2) | (19.3) | (37.2) | (42.2) | (45.6) | (34.4) | (56.9) | (46.4) | |
| 輸入 (100万ドル) | 303,696 | 288,315 | 340,842 | 80,641 | 82,144 | 95,031 | 110,613 | 32,834 | 40,907 | 36,872 | |
| (前年比、%) | (21.2) | (▲5.1) | (18.2) | (22.7) | (3.8) | (17.2) | (36.1) | (14.1) | (54.1) | (42.5) | |
| 貿易収支 (100万ドル) | ▲118,401 | ▲109,546 | ▲99,104 | ▲29,863 | ▲18,706 | ▲21,694 | ▲31,610 | ▲8,985 | ▲14,966 | ▲7,659 | |
| 経常収支 (100万ドル) | ▲27,914 | ▲38,383 | ▲44,281 | ▲16,798 | ▲9,977 | ▲5,404 | | | | | |
| 外貨準備高 (除く金) (100万\$) | 242,408 | 261,071 | 282,505 | 272,354 | 274,864 | 281,846 | 291,047 | 289,721 | 287,125 | 291,047 | |
| レポレート (%) ◎ | 5.00 | 5.00 | 6.75 | 6.00 | 6.25 | 6.75 | 7.50 | 6.75 | 7.25 | 7.50 | 8.00 |
| 為替 (ルピー/ドル) * | 45.94 | 47.41 | 45.88 | 46.50 | 44.87 | 45.26 | 44.71 | 44.38 | 45.03 | 44.72 | 44.16 |
| 株価指数◎ | 9,709 | 17,528 | 19,445 | 20,069 | 20,509 | 19,445 | 18,846 | 19,136 | 18,503 | 18,846 | 18,197 |

(注) *印：期中平均値、◎印：期末値。乗用車は、ユティリティ車、多目的車を含む。
 (資料) RBI、中央統計局、CEICなどより三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

(経済調査室)

2. 政治・経済・産業トピックス

| 日付 | トピック |
|------|--|
| 7月1日 | 5月の輸出額は前年比+56.9%の259億ドル。 |
| 1日 | 6月の製造業購買担当者指数(PMI)は55.3、前月(57.5)から下落。 |
| 4日 | 5月の海外からの直接投資流入額は46.6億ドル、前年比+110.9%。4-5月期では77.9億ドル、前年比+77.3%。 |
| 11日 | 6月の乗用車販売台数は前年比+4.2%の18万9,000台。 |
| 12日 | 5月の鉱工業生産指数は前年比+5.6%と前月(同+5.8%)から減速。 |
| 13日 | ムンバイで連続爆発テロ発生。 |
| 14日 | 6月の卸売物価上昇率は前年比9.4%と前月(同9.1%)から加速。 |
| 26日 | インド準備銀行(RBI)が政策金利を50bp引き上げ(下記①)。 |
| 8月1日 | 6月のインフラ8業種生産指数は前年比+5.2%。 |
| 1日 | 7月の製造業購買担当者指数(PMI)は53.6、前月(55.3)から下落。 |
| 1日 | 経済諮問委員会が2011年度の成長率見通しを9.0%から8.2%へ引き下げ(下記②)。 |
| 1日 | 日印経済連携協定(EPA)が発効(下記③)。 |

①インド準備銀行(RBI)が予想を上回る50bpの利上げを実施

7月26日、インド準備銀行(RBI、中央銀行)は、金融政策会合で昨年3月以降11度目の利上げを決定、即日実施した(レポレート:7.5%→8.0%)。利上げ幅は50bpと事前予想(25bp)を上回った。この背景には、6月の卸売物価上昇率(WPI)が前年比9.4%に達し、度重なる利上げにもかかわらず、インフレ圧力は依然強いことがある。

中銀は、向こう数カ月は物価の高止まりが続いた後、徐々に鈍化するとみているが、2012年3月の卸売物価上昇率は前年比7%と従来の同6%から上方修正した。

②経済諮問委員会が2011年度の成長率見通しを9.0%から8.2%へ引き下げ

8月1日、首相直轄の経済諮問委員会は、2011年度の成長率見通しを従来の9.0%から8.2%へ下方修正した。下方修正の背景には、食料やエネルギー価格の上昇によりインフレが高進していることがある。同委員会は、卸売物価上昇率は10月まで9%超が続き、その後鈍化するものの、2012年3月の上昇率は前年比6.5%とみている。なお、中銀は2012年3月の卸売物価上昇率を上方修正した一方、2011年度の成長率見通しを8.0%と据え置いた。

③日印経済連携協定(EPA)が発効

8月1日、日印経済連携協定(EPA)が発効した。日印EPAは昨年10月、シン首相が日本を訪問した際、菅首相との会談で締結することで合意した。発効から10年間で両国の貿易総額の94%(日本の輸出品の約90%、インドの輸出品の約97%)の関税を撤廃する。日本の輸出品では、自動車部品、鉄鋼、DVDプレーヤーなどの関税を撤廃、インドの輸出品では、ほぼ全ての鉱工業品やカレー、紅茶などの関税を撤廃する。なお、日本が輸出する完成車やインドが輸出するコメ、牛肉などは関税撤廃の対象外となった。

(ニューデリー支店)

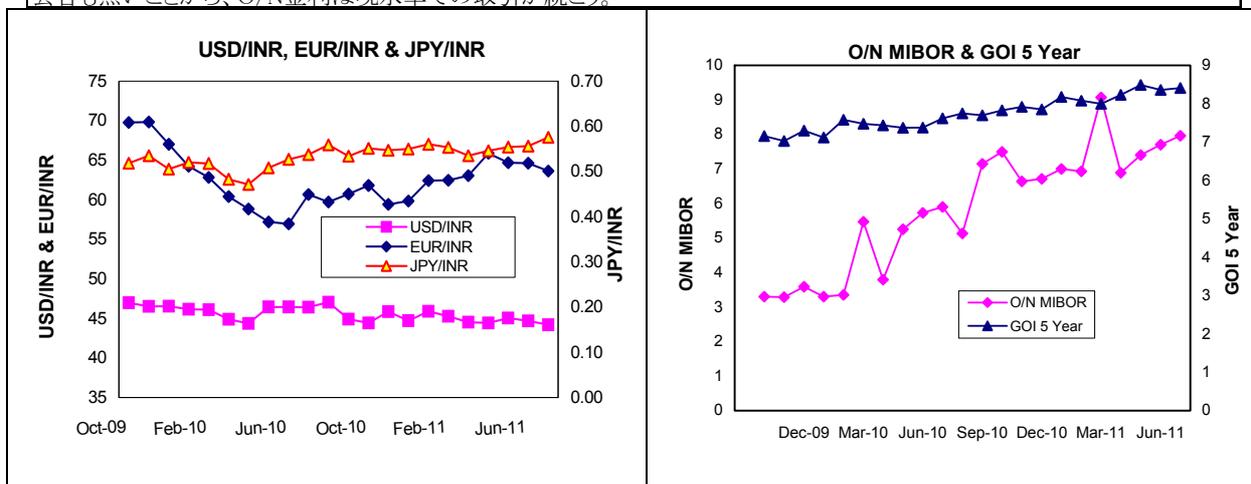
3. 市場動向

(1) 為替

| |
|---|
| 7月の動向 |
| <p>インドルピーは対米ドル44.6825でオープンした。月初は株式市場が堅調推移となり、SENSEX指数が約2ヶ月振りの高値となる19,000台を回復したことからルピー買いの動きが強まった。しかしユーロ圏蔵相会談でイタリア問題が協議されるとの噂を背景に同国債先物が急落すると市場のセンチメントは悪化、ルピーは44.70台まで反落、その後は44台半ばでのみ合いに転じた。26日の金融政策決定会合では市場の予想を上回る50Bpの利上げが決定、これを受け一旦は金利高をはやしたルピー買いの動きが強まりルピーは急騰、3年振りの高値となる43.855まで買い進まれた。しかし、その後は逆に高金利がインド経済に与える悪影響が意識される展開となり、株式市場が急落する中、ルピーは反落、44.20台まで戻し、結局44.19でクローズした。尚、SENSEX指数は18,974.96でオープン後、一時19,000台を回復したが、海外投資家による買いは続かず、利上げが企業業績に与える悪影響が意識される中、値を下げる展開となり、18,197.20でクローズしている。</p> |
| 8月の展望～予想レンジ 44.00-45.20 |
| <p>中銀がインフレ抑制スタンスを明確にし、大幅な利上げに踏み切ったことで、インド経済の減速、鈍化懸念が高まっている。株式市場は軟調であり目先の大幅なセンチメント改善は考え難い。5月以降買い進まれてきたルピー相場だが8月は軟調な展開が予想され、44台後半を試す展開となろう。但し、市場の急速な動きに対しては中銀が介入で対処する可能性が高く、ルピー急落までは考えがたい。44台半ばを中心にルピー安値を探る展開が予想され、44.00-45.20レンジでの取引を予想。</p> |

(2) 金利

| |
|--|
| 7月の動向 |
| <p>中銀は26日開催の金融政策決定会合で市場予想を上回る50Bpの利上げを決定、レポレートと8.00%とした。これを受けO/N金利は上昇8.00%～8.10%水準に上昇している。債券市場は軟調。指標10年債利回りは利上げ後8.45%台まで上昇している。</p> |
| 8月の展望 |
| <p>足元、食料品価格の上昇は好調な生産の影響もありピークアウトしつつある。一方で燃料価格は政府が管理価格の引き上げを行っておりこれがインフレ率を押し上げる要因となっている。また、工業製品への価格転嫁の動きも継続しており、当面インフレ率の低下が見込まれる状況には無い。こうした状況下、中銀は引き続きインフレに対する警戒感を緩めてはいない。但し、利上げによる景気減速が各種経済指標上も明確になりつつ有り、先手を打って急速な利上げを行って来た中銀もさすがに一旦は利上げ効果を見極める為に一旦は様子見に転じる可能性が強いものと思われる。来月は政策決定会合も無いことから、O/N金利は現水準での取引が続こう。</p> |



| | | | 2009/3 | 2010/3 | 2011/3 | 2011/6 | 2011/7 | 2011/8 (予想) |
|----|------------------------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|----------------|
| 為替 | USD/INR (month end) | TTM | 50.92 | 45.09 | 44.69 | 44.76 | 44.10 | |
| | | Buying | 50.67 | 44.87 | 44.47 | 44.54 | 43.38 | |
| | | Selling | 51.17 | 45.31 | 44.91 | 44.98 | 44.31 | |
| | Month End | USD/INR | 50.75 | 44.9 | 45.595 | 44.705 | 44.19 | 44.00-45.20 |
| | | JPY/INR | 0.519 | 0.483 | 0.535 | 0.556 | 0.576 | |
| 金利 | | 3mMibor | 7.64 | 5.69 | 9.85 | 9.43 | 9.41 | |
| | | 10 Y | 7.01 | 7.87 | 7.98 | 8.33 | 8.45 | |

(ニューデリー支店)

■ アジア各国の主要経済指標

1. 名目GDP (億ドル)

| | インドネシア | マレーシア | フィリピン | シンガポール | タイ | ベトナム | インド | 中国 | 香港 | 台湾 | 韓国 |
|------|--------|-------|-------|--------|-------|-------|--------|--------|-------|-------|--------|
| 2004 | 2,568 | 1,247 | 869 | 1,127 | 1,613 | 454 | 6,738 | 19,316 | 1,659 | 3,400 | 7,220 |
| 2005 | 2,859 | 1,380 | 988 | 1,254 | 1,764 | 529 | 7,686 | 22,569 | 1,778 | 3,648 | 8,449 |
| 2006 | 3,646 | 1,567 | 1,175 | 1,451 | 2,072 | 609 | 8,723 | 27,129 | 1,899 | 3,763 | 9,518 |
| 2007 | 4,322 | 1,864 | 1,441 | 1,768 | 2,471 | 710 | 11,080 | 34,941 | 2,071 | 3,931 | 10,492 |
| 2008 | 5,105 | 2,223 | 1,672 | 1,894 | 2,724 | 911 | 12,141 | 45,195 | 2,151 | 4,002 | 9,314 |
| 2009 | 5,403 | 1,928 | 1,611 | 1,833 | 2,640 | 972 | 12,671 | 49,844 | 2,106 | 3,774 | 8,341 |
| 2010 | 7,071 | 2,379 | 1,888 | 2,227 | 3,187 | 1,036 | 15,980 | 58,830 | 2,276 | 4,302 | 10,144 |

2. 人口 (100万人)

| | インドネシア | マレーシア | フィリピン | シンガポール | タイ | ベトナム | インド | 中国 | 香港 | 台湾 | 韓国 |
|------|--------|-------|-------|--------|------|------|---------|---------|-----|------|------|
| 2004 | 216.4 | 25.6 | 83.6 | 4.2 | 62.0 | 81.4 | 1,113.3 | 1,299.9 | 6.8 | 22.6 | 47.4 |
| 2005 | 219.9 | 26.1 | 85.3 | 4.3 | 62.4 | 82.4 | 1,130.6 | 1,307.6 | 6.8 | 22.7 | 47.6 |
| 2006 | 222.7 | 26.6 | 87.0 | 4.4 | 62.8 | 83.3 | 1,147.8 | 1,314.5 | 6.9 | 22.8 | 47.8 |
| 2007 | 225.6 | 27.2 | 88.7 | 4.6 | 63.0 | 84.2 | 1,164.7 | 1,321.3 | 7.0 | 22.9 | 48.0 |
| 2008 | 228.5 | 27.5 | 90.5 | 4.8 | 63.4 | 85.1 | 1,181.4 | 1,328.0 | 7.0 | 22.9 | 48.2 |
| 2009 | 231.4 | 27.9 | 92.2 | 5.0 | 63.5 | 86.0 | 1,198.0 | 1,334.7 | 7.0 | 23.0 | 48.3 |
| 2010 | 234.6 | 28.3 | 94.0 | 5.1 | 63.9 | 88.6 | 1,210.1 | 1,341.0 | 7.1 | 23.2 | 48.9 |

3. 1人当たりGDP (ドル)

| | インドネシア | マレーシア | フィリピン | シンガポール | タイ | ベトナム | インド | 中国 | 香港 | 台湾 | 韓国 |
|------|--------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|--------|--------|--------|
| 2004 | 1,187 | 4,877 | 1,040 | 27,048 | 2,603 | 558 | 606 | 1,486 | 24,403 | 14,986 | 15,029 |
| 2005 | 1,300 | 5,280 | 1,159 | 29,403 | 2,825 | 642 | 680 | 1,726 | 25,998 | 16,023 | 17,551 |
| 2006 | 1,637 | 5,878 | 1,351 | 32,961 | 3,298 | 731 | 760 | 2,064 | 27,489 | 16,451 | 19,707 |
| 2007 | 1,916 | 6,872 | 1,624 | 38,523 | 3,920 | 843 | 951 | 2,644 | 29,783 | 17,122 | 21,653 |
| 2008 | 2,234 | 8,072 | 1,848 | 39,131 | 4,298 | 1,070 | 1,028 | 3,403 | 30,784 | 17,372 | 19,162 |
| 2009 | 2,333 | 6,912 | 1,746 | 36,740 | 4,155 | 1,130 | 1,058 | 3,734 | 29,968 | 16,326 | 17,225 |
| 2010 | 3,005 | 8,422 | 2,008 | 43,925 | 4,989 | 1,174 | 1,321 | 4,387 | 32,064 | 18,573 | 20,755 |

4. 実質GDP成長率 (前年比、%)

| | インドネシア | マレーシア | フィリピン | シンガポール | タイ | ベトナム | インド | 中国 | 香港 | 台湾 | 韓国 |
|--------|--------|-------|-------|--------|-------|------|-----|------|-------|-------|-----|
| 2007 | 6.3 | 6.5 | 7.1 | 8.8 | 5.0 | 8.5 | 9.3 | 14.2 | 6.4 | 6.0 | 5.1 |
| 2008 | 6.0 | 4.7 | 3.7 | 1.5 | 2.5 | 6.2 | 6.8 | 9.6 | 2.3 | 0.7 | 2.3 |
| 2009 | 4.6 | ▲ 1.7 | 1.1 | ▲ 0.8 | ▲ 2.3 | 5.3 | 8.0 | 9.2 | ▲ 2.7 | ▲ 1.9 | 0.3 |
| 2010 | 6.1 | 7.2 | 7.6 | 14.5 | 7.8 | 6.8 | 8.5 | 10.3 | 7.0 | 10.9 | 6.2 |
| 09/7-9 | 4.2 | ▲ 1.2 | 0.5 | 2.1 | ▲ 2.8 | 6.0 | 8.6 | 9.6 | ▲ 2.1 | ▲ 1.0 | 1.0 |
| 10-12 | 5.4 | 4.4 | 1.4 | 4.6 | 5.9 | 6.9 | 7.3 | 11.3 | 2.5 | 9.1 | 6.5 |
| 10/1-3 | 5.6 | 10.1 | 8.4 | 16.4 | 12.0 | 5.8 | 9.4 | 11.9 | 8.0 | 13.7 | 8.5 |
| 4-6 | 6.1 | 8.9 | 8.9 | 19.4 | 9.2 | 6.4 | 9.3 | 10.3 | 6.7 | 12.9 | 7.5 |
| 7-9 | 5.8 | 5.3 | 7.3 | 10.5 | 6.6 | 7.2 | 8.9 | 9.6 | 6.9 | 10.7 | 4.4 |
| 10-12 | 6.9 | 4.8 | 6.1 | 12.0 | 3.8 | 7.3 | 8.3 | 9.8 | 6.4 | 7.1 | 4.7 |
| 11/1-3 | 6.5 | 4.6 | 4.9 | 9.3 | 3.0 | 5.4 | 7.8 | 9.7 | 7.2 | 6.6 | 4.2 |
| 4-6 | 6.5 | | | 0.9 | | 5.7 | | 9.5 | | 4.9 | 3.4 |

5. 消費者物価上昇率 (前年比、%)

| | インドネシア | マレーシア | フィリピン | シンガポール | タイ | ベトナム | インド | 中国 | 香港 | 台湾 | 韓国 |
|------|--------|-------|-------|--------|-------|------|------|-------|-------|-------|-----|
| 2004 | 6.1 | 1.4 | 6.0 | 1.7 | 2.8 | 7.9 | 3.9 | 3.9 | ▲ 0.4 | 1.6 | 3.6 |
| 2005 | 10.5 | 3.0 | 7.6 | 0.5 | 4.5 | 8.3 | 4.2 | 1.8 | 0.9 | 2.3 | 2.8 |
| 2006 | 13.1 | 3.6 | 6.2 | 1.0 | 4.7 | 7.5 | 6.8 | 1.5 | 2.0 | 0.6 | 2.2 |
| 2007 | 6.4 | 2.0 | 2.8 | 2.1 | 2.2 | 8.3 | 6.2 | 4.8 | 2.0 | 1.8 | 2.5 |
| 2008 | 10.3 | 5.4 | 9.3 | 6.6 | 5.5 | 23.0 | 9.1 | 5.9 | 4.3 | 3.5 | 4.7 |
| 2009 | 4.8 | 0.6 | 3.2 | 0.6 | ▲ 0.9 | 6.9 | 12.4 | ▲ 0.7 | 0.5 | ▲ 0.9 | 2.8 |
| 2010 | 5.1 | 1.7 | 3.8 | 2.8 | 3.3 | 9.2 | 10.5 | 3.3 | 2.4 | 1.0 | 3.0 |

(注) インドは年度 (4月～翌年3月) ベース。

(資料) IMF, CEICなどより三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

6. 外貨準備高 (除く金、億ドル)

| | インドネシア | マレーシア | フィリピン | シンガポール | タイ | ベトナム | インド | 中国 | 香港 | 台湾 | 韓国 |
|------|--------|-------|-------|--------|-------|------|-------|--------|-------|-------|-------|
| 2004 | 350 | 659 | 131 | 1,126 | 487 | 70 | 1,266 | 6,145 | 1,235 | 2,369 | 1,990 |
| 2005 | 331 | 699 | 159 | 1,162 | 507 | 91 | 1,319 | 8,215 | 1,242 | 2,486 | 2,103 |
| 2006 | 411 | 821 | 200 | 1,363 | 653 | 134 | 1,707 | 10,685 | 1,332 | 2,656 | 2,389 |
| 2007 | 550 | 1,010 | 302 | 1,630 | 852 | 235 | 2,670 | 15,303 | 1,526 | 2,703 | 2,622 |
| 2008 | 496 | 911 | 332 | 1,742 | 1,087 | 237 | 2,474 | 19,493 | 1,825 | 2,870 | 2,011 |
| 2009 | 636 | 954 | 388 | 1,878 | 1,355 | 174 | 2,652 | 24,160 | 2,562 | 3,434 | 2,699 |
| 2010 | 929 | 1,049 | 554 | 2,258 | 1,675 | | 2,749 | 28,661 | 2,686 | 3,768 | 2,915 |
| 10/4 | 758 | 947 | 406 | 2,034 | 1,444 | | 2,611 | 25,069 | 2,592 | 3,527 | 2,788 |
| 5 | 718 | 941 | 410 | 1,984 | 1,402 | | 2,541 | 24,562 | 2,561 | 3,553 | 2,701 |
| 6 | 734 | 933 | 418 | 2,000 | 1,434 | 141 | 2,558 | 24,712 | 2,567 | 3,576 | 2,741 |
| 7 | 761 | 936 | 424 | 2,069 | 1,477 | | 2,649 | 25,564 | 2,606 | 3,653 | 2,859 |
| 8 | 784 | 939 | 428 | 2,064 | 1,512 | | 2,631 | 25,653 | 2,613 | 3,673 | 2,853 |
| 9 | 835 | 992 | 464 | 2,147 | 1,590 | 141 | 2,724 | 26,669 | 2,660 | 3,756 | 2,897 |
| 10 | 887 | 1,038 | 503 | 2,214 | 1,667 | | 2,763 | 27,798 | 2,670 | 3,788 | 2,933 |
| 11 | 896 | 1,043 | 537 | 2,176 | 1,635 | | 2,703 | 27,861 | 2,660 | 3,742 | 2,902 |
| 12 | 929 | 1,049 | 554 | 2,258 | 1,675 | 125 | 2,749 | 28,661 | 2,686 | 3,768 | 2,915 |
| 11/1 | 922 | 1,065 | 570 | 2,271 | 1,697 | | 2,773 | 29,524 | 2,731 | 3,819 | 2,959 |
| 2 | 963 | 1,081 | 569 | 2,309 | 1,749 | | 2,794 | 30,122 | 2,726 | 3,855 | 2,976 |
| 3 | 1,024 | 1,122 | 589 | 2,334 | 1,765 | 122 | 2,818 | 30,672 | 2,768 | 3,874 | 2,985 |
| 4 | 1,102 | 1,283 | 609 | 2,342 | 1,843 | | 2,897 | | 2,725 | 3,942 | 3,071 |
| 5 | 1,145 | 1,311 | 613 | 2,425 | 1,801 | | 2,871 | | 2,726 | 3,933 | 3,050 |
| 6 | 1,161 | 1,326 | 614 | 2,394 | 1,788 | | 2,910 | | 2,731 | 3,950 | 3,044 |
| 7 | | | 633 | 2,423 | 1,810 | | | | | | 3,097 |

7. 対ドル為替相場 (期中平均)

| | インドネシア | マレーシア | フィリピン | シンガポール | タイ | ベトナム | インド | 中国 | 香港 | 台湾 | 韓国 |
|------|--------|-------|-------|--------|------|--------|------|------|------|------|-------|
| 2004 | 8,939 | 3,800 | 56.0 | 1,690 | 40.2 | 15,746 | 45.3 | 8.28 | 7.79 | 33.4 | 1,145 |
| 2005 | 9,705 | 3,787 | 55.1 | 1,664 | 40.2 | 15,859 | 44.1 | 8.19 | 7.78 | 32.2 | 1,024 |
| 2006 | 9,159 | 3,668 | 51.3 | 1,589 | 37.9 | 15,994 | 45.3 | 7.97 | 7.77 | 32.5 | 955 |
| 2007 | 9,141 | 3,438 | 46.1 | 1,507 | 34.5 | 16,105 | 41.3 | 7.61 | 7.80 | 32.9 | 929 |
| 2008 | 9,699 | 3,336 | 44.3 | 1,415 | 33.3 | 16,302 | 43.5 | 6.95 | 7.79 | 31.5 | 1,102 |
| 2009 | 10,390 | 3,525 | 47.7 | 1,455 | 34.3 | 17,065 | 48.4 | 6.83 | 7.75 | 33.0 | 1,277 |
| 2010 | 9,084 | 3,219 | 45.1 | 1,364 | 31.7 | 19,121 | 45.7 | 6.76 | 7.77 | 31.5 | 1,156 |

(資料) IMF資料などより三菱東京UFJ銀行経済調査室作成